

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第139集

しま ざき い せき
島 崎 遺 跡
でんばうじほんごういせき
伝法寺本郷遺跡
なかのこうきたいせき
中之郷北遺跡

2006

(財)愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター



卷頭写真 1 遺跡遠景1

1 : 島崎道路と伝法寺本郷道路（南上空から木曽川方面を臨む）
2 : 伝法寺本郷道路と宇福寺遺跡（北上空から伊勢湾方面を臨む）



卷頭写真2 遺跡遠景2

- 1：宇福寺遺跡と中之郷北遺跡（南上空から木曽川方面を臨む）
- 2：中之郷北遺跡と朝日遺跡（北上空から伊勢湾方面を臨む）



1

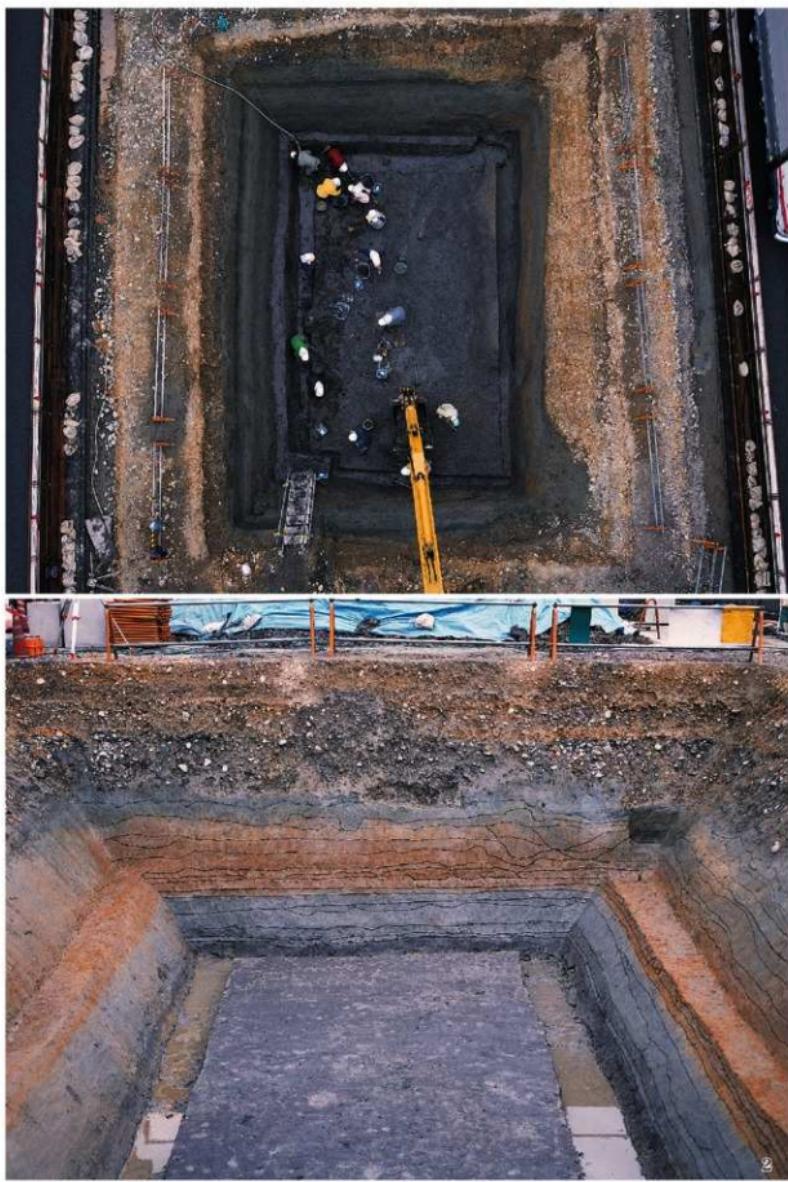


2

卷頭写真3 伝法寺本郷遺跡の遺構と遺物

1 : C区小区画水田（古墳時代に帰属すると推定）

2 : D区古代出土遺物（折戸10号窯式期の典型的な組成、金属製品生産関連遺物が伴う）



卷頭写真4 中之郷北遺跡の調査

1 : A区NR01の調査（南北に縱断する河川と杭列、7世紀に急速に埋没）
2 : C区堆積状況（現地表からV層までの堆積状況）



卷頭写真5 中之郷北遺跡の遺構

1 : HIKSU04全景 (IV d 戸で検出、松岡戸 1式の良好な一括資料が出土)

2 : I区古墳時代中期～古代竪穴住居群 (5世紀前半、5世紀後半、7世紀前半、8世紀後半の竪穴住居が重複)



1



2

巻頭写真6 中之郷北遺跡の遺物 1

1：各測定区IV b・IV a層出土遺物（松河戸I式後半～松河戸II式前半の土器に鍛冶関連遺物が伴出）

2：H区IV d・IV c層出土土器（松河戸I式前半の良好な層位資料）



1



2

卷頭写真7 中之郷北遺跡の遺物2

1：I区から出土した古墳時代中期の土器（松戸戸II式～宇田II式の資料）

2：古代の出土遺物（D・I区から出土した8世紀の資料）



卷頭写真8 宇福寺遺跡の土器

立会調査時に採集した集合資料。月影式の器台、箱清水式の壺、線刻土器、大型壺など特徴的な個体が多い。

序

濃尾平野を南北に縦断する国道 22 号線は、愛知と岐阜をつなぐ幹線道路として近代以降重要な位置を占めてきました。また過去においても美濃街道や岐阜街道などとして、尾張と美濃との関係だけではなく、この地方全域にわたっての物資や情報の主要動脈としての役割を担ってきました。

今回これらの役割をさらに推し進める目的で、名古屋高速 3 号線（県道高速清州一宮線）の建設が行われることとなりました。それを受け私ども（財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターは、愛知県教育委員会の委託事業として、平成 12 年度には島崎遺跡、平成 13 年度には伝法寺本郷遺跡と中之郷北遺跡の発掘調査を行ってまいりました。一宮市から西春町までという広範囲での調査ではありましたが、島崎遺跡では中世の集落が、伝法寺本郷遺跡では古代から中世の集落・水田が、中之郷北遺跡では古墳時代の集落が見つかるとともに、濃尾平野における遺跡の形成過程や地形環境の変化が明らかになりました。今後、本書の成果が学術的に活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、地元住民の皆様をはじめ、関係者及び関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚く御礼を申し上げます。

平成 18 年 3 月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 古池 庸男

例　　言

1. 本書は、愛知県一宮市に所在する島崎遺跡（県遺跡番号 02107：愛知県教育委員会 1994『愛知県遺跡地図（1）尾張地区』）、伝法寺本郷遺跡（県遺跡番号 02108）、愛知県西春日井郡西春町中之郷北遺跡（県遺跡番号 19016）の発掘調査報告書で、西春日井郡西春町・一宮市宇福寺遺跡（県遺跡番号 19017・02114）の立会調査概要も同時に収録した。
2. 発掘調査は、県道高速清洲一宮線建設にかかる事前調査として、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財團法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター（当時、現財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。なお、発掘調査にあたって、株式会社四門（島崎遺跡）、リメックス株式会社（当時、現ティケイトレード株式会社、伝法寺本郷遺跡）、佐伯建設工業株式会社（伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡）より支援を受けた。
3. 調査期間と調査面積、調査担当者は、別表に示した（I—第2章—第2表）。
4. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター　名古屋高速道路公社
一宮市教育委員会　西春町教育委員会
5. 報告書作成にかかる整理作業には、次の方々の助力を得た。

河合明美・安達崇子（調査研究補助員）　伊藤弘江　黒川陽子　時田典子　水野留香（整理補助員）
なお、出土遺物の写真撮影は、金子和久氏（写真工房・遊）、福岡栄氏（スタジオ・ビュア）に委託した。
6. 発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏をはじめ、多くの方々からご指導、ご協力を得た。

青木一男　青木勘時　岩原剛　加納俊介　小池香津江　城ヶ谷和広　鈴木とよ江　田口一郎　土本典生
原田幹　藤澤良祐　北條獻示　森泰通　若狭徹
7. 本書の執筆は、I、III—第1～3・5章、IV—第1～3章・第4章（8）～（10）、第5章、Vを早野浩二（本センター調査研究員）、IIを宮腰健司（本センター主査）、III—第4章（1）、IV—第4章（1）を山形秀樹（株式会社パレオ・ラボ）、III—第4章（2）、IV—第4章（6）を植田弥生（株式会社パレオ・ラボ）、III—第4章（3）を鶴剣雅弘（本センター調査研究員）、IV—第4章（2）を馬場健司・辻本裕也（パリノ・サーヴェイ株式会社）、（3）をパレオ・ラボ AMS 年代測定グループ、（4）を藤根久・長友純子（株式会社パレオ・ラボ）、（5）を小村美代子（株式会社パレオ・ラボ）、（7）を森勇一（愛知県立津島東高校）が担当した。
8. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。

S K : 土坑、S E : 井戸、S B : 建物、S A : 櫛、S T : 耕作地（水田・畑地）
S D : 溝、S U : 遺物集積、N R : 自然流路、S X : その他不明遺構
9. 発掘調査および本書で使用した座標は、国土座標第VII系に準拠した。ただし、旧標準の「日本測地系」で表記している。
10. 本書で使用する土層の色調については、「新版標準土色帳」を参考に記述した。
11. 発掘調査の記録（実測図、写真等）は、財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
12. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センター（愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田字野方 802-24）で保管している。
13. 本書の編集は I、III、IV、V を早野浩二、II を宮腰健司が担当した。

目 次

卷頭写真

I 前章.....	1
第1章 調査の経緯	2
第2章 調査の経過	4
第3章 周辺の環境	6
II 島崎遺跡	11
第1章 遺跡の環境	12
第2章 調査の概要	12
第3章 遺構・遺物	15
第4章 まとめ	49
III 伝法寺本郷遺跡	55
第1章 調査の概要	56
第2章 基本層序と検出遺構	58
第3章 遺構と遺物	60
第4章 分析・考察	92
第5章 まとめ	104
IV 中之郷北遺跡	107
第1章 調査の概要	108
第2章 基本層序と検出遺構	110
第3章 遺構と遺物	114
第4章 分析・考察	220
第5章 まとめ	294
V 宇福寺遺跡の調査.....	299
第1章 調査の経緯	300
第2章 立会調査の概要	304
第3章 採集遺物の概要	310
第4章 考察	331
第5章 まとめ	348

報告書抄録

卷頭図版目次

卷頭写真1 遺跡遠景1

卷頭写真2 遺跡遠景2

卷頭写真3 伝法寺本郷遺跡の遺構と遺物

卷頭写真4 中之郷北遺跡の調査

卷頭写真5 中之郷北遺跡の遺構

卷頭写真6 中之郷北遺跡の遺物1

卷頭写真7 中之郷北遺跡の遺物2

卷頭写真8 宇福寺遺跡の土器

挿図目次

〈I 前章〉

第1図 遺跡の位置

第2図 試掘地点と調査遺跡

第3図 標現山遺跡の繩文土器

第4図 伝西大門遺跡の須恵器

第5図 周辺の遺跡分布

第6図 遺跡周辺の地形

〈II 島崎遺跡〉

第7図 遺跡周辺地形図

第8図 調査区位置図

第9図 A区 SD04・05・06・07 土層断面

第10図 A区第1面遺構図

第11図 A区第2面遺構図

第12図 A区東壁・南壁上層断面図

第13図 A区出土遺物実測図

第14図 B区 SX01 土層断面

第15図 B区第1面遺構図

第16図 B区第2面遺構図

第17図 B区東壁・南壁上層断面図

第18図 B区出土遺物実測図

第19図 C区第1面遺構図

第20図 C区第2面遺構図

第21図 C区東壁・南壁上層断面図

第22図 D区第2面遺構図

第23図 D区東壁・北壁上層断面図

第24図 D区 SK14、SK09・47・51・52 土層断面

第25図 D区 SK30、SK05、SK34 土層断面

第26図 D区出土遺物実測図

第27図 E区 SK04、SK05 土層断面

第28図 E区第1面遺構図

第29図 E区第2面遺構図

第30図 E区東壁・北壁上層断面図

第31図 E区出土遺物実測図

第32図 F区 SK51・52 土層断面

第33図 F区第1面遺構図

第34図 F区第2面遺構図

第35図 F区東壁・北壁上層断面図

第36図 F区出土銭貨拓本・X線写真

第37図 F区出土遺物実測図

第38図 G区出土遺物実測図

第39図 G区第1面遺構図

第40図 G区第2面遺構図

第41図 G区西壁・北壁上層断面図

第42図 H区出土遺物実測図

第43図 H区第2面遺構図

第44図 H区西壁・南壁上層断面図

第45図 I区第1面遺構図

第46図 I区第2面遺構図

第47図 I区第3面遺構図

第48図 I区東壁・北壁上層断面図

第49図 I区 SD01 土層断面

第50図 I区 SD02・03 土層断面

第51図 I区出土遺物実測図1

第52図 I区出土遺物実測図2

第53図 J区第1面遺構図

第54図 J区第2面遺構図

第55図 J区東壁・南壁上層断面図

第56図 J区出土遺物実測図

第57図 明治17年地籍図

第58図 加工円盤分布図

- 第 59 図 島崎遺跡主要遺構配置図
〈III 伝法寺本郷遺跡〉
第 60 図 試掘調査の所見
第 61 図 伝法寺本郷遺跡調査区配置図
第 62 図 伝法寺本郷遺跡検出遺構の概要
第 63 図 伝法寺本郷遺跡調査区土層断面柱状図
第 64 図 A 区東壁土層断面図
第 65 図 A 区下面遺構図
第 66 図 A 区古代出土遺物実測図
第 67 図 A 区遺構土層断面図
第 68 図 A 区上面遺構図
第 69 図 A 区中世～近世出土遺物実測図
第 70 図 A 区出土金属製品生産関連遺物実測図
第 71 図 B 区東壁土層断面図
第 72 図 B 区遺構土層断面図
第 73 図 B 区遺構図
第 74 図 B 区出土遺物実測図
第 75 図 C 区東壁土層断面図
第 76 図 C 区遺構図
第 77 図 C 区出土遺物実測図
第 78 図 D 区東壁土層断面図
第 79 図 D 区遺構図
第 80 図 D 区 SB01 遺構図・遺物出土状態図
第 81 図 D 区 SB02 遺物出土状態図
第 82 図 D 区 SB02 土層断面図
第 83 図 D 区 SK02 遺構図
第 84 図 D 区出土遺物実測図
第 85 図 八王子遺跡出土鉄型（内型）実測図
第 86 図 D 区出土金属製品生産関連遺物実測図
第 87 図 E 区遺構図
第 88 図 E 区東壁土層断面図
第 89 図 E 区出土遺物実測図
第 90 図 F 区西壁土層断面図
第 91 図 F 区出土遺物実測図
第 92 図 F 区遺構図
第 93 図 G 区東壁土層断面図
第 94 図 G 区下面遺構図
第 95 図 G 区上面遺構図
第 96 図 G 区出土遺物実測図
第 97 図 伝法寺本郷遺跡調査区と地籍図の照合
第 98 図 丹羽郡伝法寺村絵図
第 99 図 春日井郡宇福寺村絵図
第 100 図 伝法寺本郷遺跡の景観復原
〈IV 中之郷北遺跡〉
第 101 図 試掘調査の所見
第 102 図 中之郷北遺跡調査区配置図
第 103 図 中之郷北遺跡検出遺構の概要
第 104 図 中之郷北遺跡調査区土層断面柱状図 1
第 105 図 中之郷北遺跡調査区土層断面柱状図 2
第 106 図 A 区東壁土層断面図
第 107 図 A 区 NR01 遺構図
第 108 図 A 区 NR01- 3 層杭列遺構図 1
第 109 図 A 区 NR01- 3 層杭列遺構図 2
第 110 図 A 区 NR01 遺物出土状況
第 111 図 A 区 NR01-4 層出土遺物実測図
第 112 図 A 区 NR01- 3 層出土遺物実測図
第 113 図 A 区 NR01- 3 層出土木製品実測図
第 114 図 A 区 I 層・SD04 出土遺物実測図
第 115 図 A 区中世～近世遺構図
第 116 図 B a 区東壁土層断面図
第 117 図 B a 区 NR03・01 遺構図
第 118 図 B a 区中世～近世遺構図
第 119 図 B a 区出土遺物実測図
第 120 図 B b 区古墳時代初頭遺構図
第 121 図 B b 区東壁土層断面図
第 122 図 B b 区古墳時代中期遺構図
第 123 図 B b 区 SU01 遺物出土状態図
第 124 図 B b 区出土遺物実測図
第 125 図 C 区西壁土層断面図
第 126 図 C 区古墳時代初頭遺構図
第 127 図 C 区古代遺構図
第 128 図 C 区近世遺構図 1
第 129 図 C 区出土遺物実測図
第 130 図 D 区西壁土層断面図
第 131 図 D 区古墳時代初頭・古墳時代後期遺構図
第 132 図 D 区古墳時代出土遺物実測図
第 133 図 D 区古代遺構図
第 134 図 D 区 SB03 遺構図

第 135 図	D 区 SB03 罐遺構図	第 174 図	I 区 西壁土層断面図
第 136 図	D 区 SB03 支脚	第 175 図	I 区 古墳時代中期遺構図
第 137 図	D 区 SB01・02 遺構図	第 176 図	I 区 古墳時代中期～古代遺構図
第 138 図	D 区 SB04 遺構図	第 177 図	I 区 SB09・03 遺構図
第 139 図	D 区 SB05 遺構図	第 178 図	I 区 SB10 遺構図／遺物出土状態図
第 140 図	D 区 SB06・07・08 遺構図	第 179 図	I 区 SB07 遺物出土状態図
第 141 図	D 区 中世遺構図	第 180 図	I 区 SK54・80 遺物出土状態図
第 142 図	D 区 古代出土遺物実測図	第 181 図	I 区 古墳時代出土遺物実測図 1
第 143 図	E 区 西壁土層断面図	第 182 図	I 区 古墳時代出土遺物実測図 2
第 144 図	E 区 古代遺構図	第 183 図	I 区 SB08・06 遺構図
第 145 図	E 区 IV 層・II 層出土遺物実測図	第 184 図	I 区 SB05・04・02 遺構図
第 146 図	E 区 出土石製品実測図	第 185 図	I 区 SB02 罐遺構図
第 147 図	E 区 中世～近世遺構図	第 186 図	I 区 SB01 遺構図
第 148 図	F 区 西壁土層断面図	第 187 図	I 区 古墳時代中期～古代遺構変遷図
第 149 図	F 区 古代～中世遺構図	第 188 図	I 区 古代出土遺物実測図 1
第 150 図	F 区 近世遺構図	第 189 図	I 区 古代出土遺物実測図 2
第 151 図	F 区 出土遺物実測図	第 190 図	I 区 古代出土遺物実測図 3
第 152 図	F 区 北壁土層断面図	第 191 図	I 区 古代出土遺物実測図 4
第 153 図	D・E・F 区 古墳時代水田遺構全体図	第 192 図	I 区 中世遺構図
第 154 図	D・E・F 区 古墳時代水田遺構図	第 193 図	I 区 中世出土遺物実測図
第 155 図	G 区 西壁土層断面図	第 194 図	I 区 鉄製品・金属製品生産関連遺物実測図
第 156 図	G 区 古墳時代中期～中世遺構図	第 195 図	J 区 東壁土層断面図
第 157 図	G 区 近世遺構図	第 196 図	J 区 古代遺構図
第 158 図	G 区 出土遺物実測図	第 197 図	J 区 近世～近代遺構図
第 159 図	G 区 出土金属製品実測図	第 198 図	J 区 出土遺物実測図
第 160 図	H 区 西壁土層断面図	第 199 図	J 区 出土石製品・金属製品実測図
第 161 図	H 区 古墳時代初頭遺構図	第 200 図	K 区 西壁土層断面図
第 162 図	H 区 SU04 遺構図・遺物出土状態図	第 201 図	K 区 近世～近代遺構図
第 163 図	H 区 SU01～03 遺構図・遺物出土状態図	第 202 図	K 区 出土遺物実測図
第 164 図	H 区 SU04・V 層出土遺物実測図	第 203 図	調査地点の順序および分析層準
第 165 図	H 区 IVc 層・IVb 層・SU01～03 出土遺物実測図	第 204 図	B a・B b 区の植物珪酸体含量
第 166 図	SD44 土層断面図	第 205 図	D・E 区の植物珪酸体含量
第 167 図	H 区 古代遺構図	第 206 図	F・G 区の植物珪酸体含量
第 168 図	H 区 中世遺構図	第 207 図	H・K 区の植物珪酸体含量
第 169 図	H 区 近世遺構図	第 208 図	測定試料実測図
第 170 図	H 区 近代遺構図	第 209 図	胎土分析試料実測図
第 171 図	H 区 古墳時代後期～古代出土遺物実測図	第 210 図	赤色顔料の蛍光 X 線スペクトル図
第 172 図	H 区 I 層・中世～近代出土遺物実測図	第 211 図	月輪手遺跡土坑
第 173 図	H 区 出土石製品・鉄製品・金属製品生産関連遺物実測図	第 212 図	H 区 IV 層中の土器群包含状況

- | | | | |
|--------------|-------------------------------|---------|-----------------------|
| 第 213 図 | H 区 IV 層出土土器群の組成 | 第 245 図 | P 83 工区土器分布状況模式図 |
| 第 214 図 | 中之郷北遺跡 IV 層層位資料と月闌手遺跡土坑資料との対比 | 第 246 図 | P 82 工区土器分布状況模式図 |
| 第 215 図 | S 字甕口縁部形状の比較 | 第 247 図 | P 80 工区土器分布状況模式図 |
| 第 216 図 | 高杯杯部径径と縦深比の比較 | 第 248 図 | 調査区土層断面柱状図 1 |
| 第 217 図 | 松河戸遺跡 SK201 出土土器 | 第 249 図 | 調査区土層断面柱状図 2 |
| 第 218 図 | I 区出土土器の変遷 | 第 250 図 | P 86 工区採集遺物実測図 |
| 第 219 図 | 八王子遺跡 NR01 最上層出土土器 | 第 251 図 | P 84 工区採集遺物実測図 |
| 第 220 図 | 朝日遺跡新資料館地点出土土器 | 第 252 図 | P 83 工区採集遺物実測図 1 |
| 第 221 図 | 朝日遺跡各地点出土土器 | 第 253 図 | P 83 工区採集遺物実測図 2 |
| 第 222 図 | 鍛冶関連遺物出土遺跡の分布 | 第 254 図 | P 83 工区採集遺物実測図 3 |
| 第 223 図 | 中之郷北遺跡の輪羽口と関連資料 | 第 255 図 | P 83 工区採集遺物実測図 4 |
| 第 224 図 | 福田遺跡の鍛冶関連遺物と出土遺構 | 第 256 図 | P 83 工区採集遺物実測図 5 |
| 第 225 図 | 法海寺遺跡の鍛冶関連遺物と関連資料 | 第 257 図 | P 83 工区採集遺物実測図 6 |
| 第 226 図 | 吉田奥遺跡 3 号住居跡と出土遺物 | 第 258 図 | P 82 工区採集遺物実測図 1 |
| 第 227 図 | 門間沼遺跡の鍛冶関連遺物と関連資料 | 第 259 図 | P 82 工区採集遺物実測図 2 |
| 第 228 図 | 大県遺跡の輪羽口 | 第 260 図 | P 82 工区採集遺物実測図 3 |
| 第 229 図 | 石川条里遺跡の輪羽口 | 第 261 図 | P 81 工区採集遺物実測図 |
| 第 230 図 | 輪羽口の形態の変遷 | 第 262 図 | P 80 工区採集遺物実測図 1 |
| 第 231 図 | 尾張地域における古墳時代中期の輪羽口の変遷 | 第 263 図 | P 80 工区採集遺物実測図 2 |
| 第 232 図 | 四反畝遺跡と大県遺跡の韓式系土器甑 | 第 264 図 | 廻間 I 式 0 ~ 1 段階の土器 |
| 第 233 図 | 椎現山 1 号墳の石室 | 第 265 図 | 宇福寺遺跡器種組成（遺跡統計） |
| 第 234 図 | 中之郷北遺跡と大瀬遺跡の管状土鍤 | 第 266 図 | 宇福寺遺跡器種組成（各工区・遺構） |
| 第 235 図 | 飯守神遺跡の「美濃」刻印須恵器 | 第 267 図 | 関連遺跡分布図 |
| 第 236 図 | 美濃須衛須恵器の諸例 | 第 268 図 | 箱清水式の主要器種 |
| 第 237 図 | 三河型甕の諸例と関連資料 | 第 269 図 | 宇福寺遺跡と小森遺跡の箱清水式土器 |
| 第 238 図 | 陶石積み槽穴式石室・埴輪・輪羽口・筒瓦等の分布 | 第 270 図 | 箱清水式土器様式図における東海系土器 |
| 第 239 図 | 中之郷北遺跡の景観復原 | 第 271 図 | 北陸系土器と関連資料 |
| 第 240 図 | 中之郷北遺跡調査区と地籍図の照合 | 第 272 図 | 布留式土器と関連資料 |
| 第 241 図 | 春日井郡中之郷村絵図 | 第 273 図 | 受口甕と S 字甕 O 類 |
| (V 宇福寺遺跡の調査) | | 第 274 図 | 朝日遺跡の布留式甕 |
| 第 242 図 | 試掘調査の所見 | 第 275 図 | 畿内における東海系と山陰系の共存 |
| 第 243 図 | 宇福寺遺跡立会調査工区一北半 | 第 276 図 | 宇福寺遺跡と元屋敷遺跡の土器に施された線刻 |
| 第 244 図 | 宇福寺遺跡立会調査工区一南半 | 第 277 図 | 宇福寺遺跡の範囲と周辺の遺跡 |

写真目次

〈I 前章〉

写 真 1 遺跡の現況

写 真 2 馬見塚遺跡

写 真 3 椿荷山古墳と高塚古墳

写 真 4 現況の島畠

〈II 島崎遺跡〉

写 真 5 調査区の位置

写 真 6 調査区遠景

写 真 7 調査風景

写 真 8 A区

写 真 9 B区

写 真 10 C区

写 真 11 D区

写 真 12 E区

写 真 13 F区

写 真 14 G区

写 真 15 H区

写 真 16 I区第1面

写 真 17 I区第2面

写 真 18 I区第3面

写 真 19 J区

写 真 20 各調査区出土遺物 1

写 真 21 各調査区出土遺物 2

〈III 伝法寺本郷遺跡〉

写 真 22 伝法寺本郷遺跡調査風景

写 真 23 A区NR01

写 真 24 A区上面遺構

写 真 25 B区NR01/上面遺構

写 真 26 C区下面/上面遺構

写 真 27 D区遺物出土状況

写 真 28 D区古代遺構

写 真 29 D区出土金属製品生産関連遺物

写 真 30 E~G区全景/E区下面/上面遺構全景

写 真 31 F区下面/上面遺構

写 真 32 G区下面/上面遺構全景

写 真 33 各調査区出土遺物

写 真 34 A区NR01出土自然木の材組織光学顕微鏡写真 1

写 真 35 A区NR01出土自然木の材組織光学顕微鏡写真 2

写 真 36 A区NR01出土自然木の材組織光学顕微鏡写真 3

〈IV 中之郷北遺跡〉

写 真 37 中之郷北遺跡調査風景

写 真 38 A区NR01

写 真 39 A区出土遺物

写 真 40 A区出土木製品

写 真 41 A区NR01遺物出土状況

写 真 42 A区土層断面/中世~近世遺構

写 真 43 B a 区土層断面/NR01/中世~近世遺構

写 真 44 B b 区古墳時代初頭遺構/SU01

写 真 45 古墳時代初頭遺構

写 真 46 C区西壁土層断面

写 真 47 C区古代/近世遺構全景

写 真 48 B a · B b · C区出土遺物

写 真 49 D区古墳時代初頭/古墳時代後期遺構全景

写 真 50 D区IV b 層遺物出土状況

写 真 51 D区古代/中世遺構

写 真 52 D区出土遺物

写 真 53 E区古墳時代/古代/中世~近世遺構

写 真 54 D区古墳時代水田全景

写 真 55 F区古墳時代/古代~中世遺構

写 真 56 G区NR02/NR01/近世遺構/土層断面

写 真 57 G区出土金属製品X線写真

写 真 58 E · F · G区出土遺物

写 真 59 H区古墳時代初頭/前期遺構

写 真 60 H区古墳時代中期遺構

写 真 61 H区古代/中世/近世/近代遺構全景

写 真 62 H区出土遺物 1

写 真 63 H区出土遺物 2

写 真 64 I区NR01全景

写 真 65 I区古墳時代中期~古代遺構全景

写 真 66 I区I期竪穴住居

写 真 67 I区2期竪穴住居

写 真 68 I区土坑遺物出土状況

写 真 69 I区古墳時代(1 · 2期)出土遺物

写 真 70 I区3期竪穴住居

- 写真 71 I 区 4 期竪穴住居 1
 写真 72 I 区 4 期竪穴住居 2
 写真 73 I 区中世遺構全景
 写真 74 I 区古代・中世出土遺物
 写真 75 鉄製品・金属製品生産関連遺物・石製品
 写真 76 J 区東壁土層断面
 写真 77 J 区古代／近世遺構全景
 写真 78 J 区中世～近代遺構全景
 写真 79 K 区近世～近代遺構／土層断面
 写真 80 植物珪酸体顕微鏡写真 1
 写真 81 植物珪酸体顕微鏡写真 2
 写真 82 土器薄片の顕微鏡写真
 写真 83 赤色顔料の付着状況
 写真 84 測定に使用した赤色顔料
 写真 85 出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真 1
 写真 86 出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真 2
 写真 87 出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真 3
 写真 88 出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真 4
 写真 89 出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真 5
 写真 90 出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真 6
 写真 91 福田遺跡の轆羽口先端部分
 写真 92 法海寺遺跡の轆羽口
 〈V 宇福寺遺跡の調査〉
 写真 93 宇福寺遺跡調査風景
 写真 94 P83 工区土層断面／遺物出土状況
 写真 95 P82 工区土層断面
 写真 96 P81/P80 工区土層断面
 写真 97 布留式高杯（5）の製作技法
 写真 98 P83 工区採集遺物 1
 写真 99 P83 工区採集遺物 2
 写真 100 P83 工区採集遺物 3
 写真 101 P82 工区採集遺物 1
 写真 102 P82 工区採集遺物 2
 写真 103 P80 工区採集遺物
 写真 104 脚部のキザミ（門間沼遺跡）

挿表目次

- 〈I 前章〉
 第 1 表 調査工程表
 〈II 島崎遺跡〉
 第 2 表 F 区出土銭貨一覧表
 〈III 伝法寺本郷遺跡〉
 第 3 表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果
 第 4 表 A 区 NR01 出土自然木樹種同定結果一覧
 〈IV 中之郷北遺跡〉
 第 5 表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果
 第 6 表 分析試料一覧
 第 7 表 B a・B b 区の植物珪酸体分析結果
 第 8 表 D・E 区の植物珪酸体分析結果
 第 9 表 F・G 区の植物珪酸体分析結果
 第 10 表 H・K 区の植物珪酸体分析結果
 第 11 表 測定試料及び処理
- 第 12 表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果
 第 13 表 出土土器の詳細とその肉眼的特徴
 第 14 表 出土土器の粘土と砂粒の特徴
 第 15 表 胎土中の岩石片の分類と組み合わせ
 第 16 表 赤色顔料から検出された元素と顔料の種類
 第 17 表 出土木製品・木材の樹種同定結果一覧
 第 18 表 形状・層位ごとの検出樹種集計
 第 19 表 中之郷北遺跡から産出した昆虫化石
 第 20 表 H 区 IV 層出土土器群の組成
 第 21 表 桧河戸・宇田式土器編年と放射性炭素年代測定値との対比
 第 22 表 錫治関連遺物一覧表
 〈V 宇福寺遺跡の調査〉
 第 23 表 編年対照表
 第 24 表 宇福寺遺跡器種組成表（遺跡統計）
 第 25 表 宇福寺遺跡器種組成表（各工区・遺構）

I 前章

第1章 調査の経緯

遺跡

島崎遺跡は一宮市島崎2丁目ほか、伝法寺本郷は一宮市丹陽町伝法寺、中之郷北遺跡は西春日井郡西春町中之郷にそれぞれ所在する（第1図）。遺跡周囲には、宅地、工業地、商業地が密集し、耕作地が点在する大都市近郊に特徴的な景観が広がっている。

名古屋高速3号線

これらの3遺跡は、名古屋高速3号線（県道高速清洲一宮線）建設計画に伴う埋蔵文化財の有無照会に応じて、平成10年8～10月に愛知県教育委員会文化財課（当時、現愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室）と愛知県埋蔵文化財調査センターが一般国道22号線の周辺において試掘調査を実施した結果、新たに発見、登録された遺跡である。

試掘調査

名古屋高速3号線建設にかかる試掘調査は、全長約8kmの予定工区周辺に、A-1からN-2までの28地点を設置し（第2図）、中世陶器を含む層を確認したK-2を含む周辺地区、H-2・H-3を含む地区、古墳時代の遺構と遺物を確認したE-2を含む周辺地区について、発掘調査が必要であることを回答した。なお、L-1・L-2を含む地区、J-1・J-2を含む地区、H-1を含む地区、F-1・G-1を含む地区、C-1・C-2を含む地区については、試掘調査において遺構が確認されず、包含層が希薄であったことから、立会調査による対応とし、その他の地区的周辺は、遺構と遺物が確認されなかったことから、保護法上支障がないものと判断された。試掘調査によって所在を確認した埋蔵文化財は、該当教育委員会との協議によって、K-2周囲を島崎遺跡（遺跡番号02107）、H-2・H-3周囲を伝法寺本郷遺跡（遺跡番号02108）、E-2周囲を中之郷北遺跡（遺跡番号19016）として決定し、新発見の遺跡として新規に登録した。

宇福寺遺跡

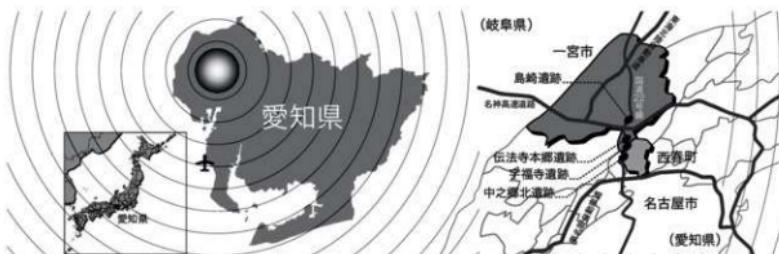
宇福寺遺跡（西春日井郡西春町宇福寺他、遺跡番号19017・02114）は、立会調査が必要とされたH-1、F-1・G-1を含む地区的工事掘削時に古墳時代の遺物が大量に発見されたことを受け、新規に登録された遺跡である。

発掘調査

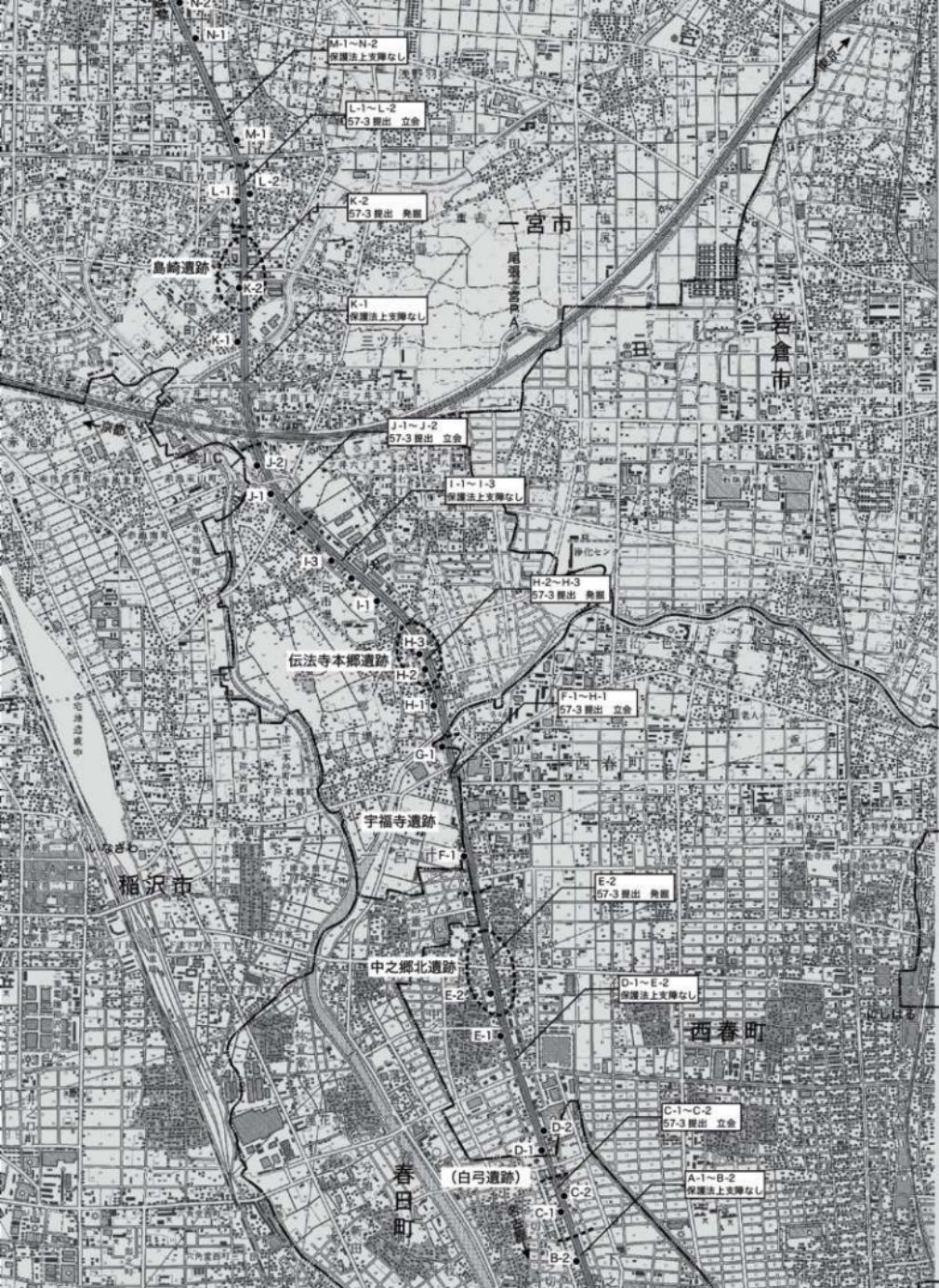
発掘調査は、県道高速清洲一宮線建設の事前調査として、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター（当時、現財団法人愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。

文献

愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター2000「愛知県埋蔵文化財情報」15 平成10年度



第1図 遺跡の位置



第2図 試掘地点と調査遺跡 (1:25,000)

第2章 調査の経過

調査区の設定

名古屋高速3号線は、一般国道22号線に高架構造で併設されるため、発掘調査は橋脚建設に際して、掘削工事に影響を受ける範囲を調査対象として、各工区に調査区を設定した。各遺跡において調査対象とした調査区と調査面積、調査期間はそれぞれ、島崎遺跡が10工区（P 137～128/A～J区）計2,000m²、平成13年1～3月、伝法寺本郷遺跡が7工区（P 96～90/A～G区）計1,600m²、平成13年4～5・8～9月、中之郷北遺跡が12工区（P 65～55・A 63/A、B a・B b、C～K）計2,400m²、平成13年10月～平成14年2月である（第1表）。なお、各遺跡の調査概要については、各報文において改めて記述する。

報告書作成

洗浄、注記までの整理作業は、平成12・13年度中に実施し、接合、復元、実測、写真撮影、収納等の整理作業と報告書の執筆、編集は、島崎遺跡を平成17年4～6月の3ヶ月、伝法寺本郷遺跡を平成17年5月の1ヶ月、中之郷北遺跡と宇福寺遺跡を平成17年6～9月の4ヶ月の期間内に実施し、平成18年3月に本書を刊行した。

文献

宮脇健司・織部匡久2001「島崎遺跡」『年報』平成12年度 財團法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
宮脇健司2002「島崎遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』17 平成12年度 愛知県教育委員会・財團法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
鶴飼雅弘・早野浩二2003「伝法寺本郷遺跡」『年報』平成13年度 財團法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
鶴飼雅弘・早野浩二2003「中之郷北遺跡」『年報』平成13年度 財團法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
鶴飼雅弘2004「伝法寺本郷遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』18 平成13年度 愛知県教育委員会・財團法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
鶴飼雅弘2004「中之郷北遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』18 平成13年度 愛知県教育委員会・財團法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター

第1表 調査工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
2000年度										J H G	F D E	A B C		
担当／ 服部信博 宮脇健司 織部匡久														
2001年度							E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z							
担当／ 石黒立人 鶴飼雅弘 早野浩二														
2002年度 (立会)	P80 P77 P78 P76 P85 P84													
遺跡 工区 調査区/調査面積	島崎遺跡 P137～128工区 A～K区/2,000m ²	伝法寺本郷遺跡 P96～90工区 A～G区/1,600m ²	中之郷北遺跡 P65～55・A 63工区 A～K区/2,400m ²	宇福寺遺跡(立会) P89～69・A74工区										
発掘留出 通知	12埋セ第173号・2000.12.5 12教生第216-40号・2000.12.25	12埋セ第208-14号・2001.3.16 12教生第216-46号・2001.3.28	13埋セ第72号・2001.8.24 13教生第36-10号・2001.9.13											



島崎道路調査着手前（I・J区）



島崎道路調査完了後（島崎1丁目交差点）



伝法寺本郷道路調査着手前（C区）



伝法寺本郷道路調査完了後（伝法寺交差点）



宇福寺道路調査着手直後（P83工区）



宇福寺道路調査完了後（五日市場交差点）



中之郷北道路調査着手前（F・G・H区）



中之郷北道路調査完了後（中之郷交差点）

写真1 道路の現況

第3章 周辺の環境

地形・地質

濃尾平野

伊勢湾を臨む濃尾平野は、西線を養老山地、東縁を台地や段丘群の発達する更新統堆積物

尾張平野

によって画される平野で、わが国第三位の広大な面積を誇る。木曽川を隔てた左岸域（愛知県側）の扇状地帯、自然堤防帯、三角州帯からなる平野面は尾張平野とも呼ばれ、その主要部分は古木曽川水系の諸河川がもたらした夥しい堆積物である第四紀沖積層によって覆われている。沖積層それぞれの岩相分布状態は、扇状地帯が礫質層、自然堤防帯が砂質層、臨海三角州帯が泥質層である。



写真2 馬見塚遺跡（県指定史跡）

遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡の立地

一宮市南東部に所在する島崎遺跡、伝法寺本郷遺跡、西春日井郡西春町西部に所在する中之郷北遺跡、宇福寺遺跡は、いずれも木曽川系自然堤防帶の緩傾斜面に立地する。五条川水系の岩倉市域、一宮市南東部域、西春町東部域、西春日井郡師勝町域には、砂質層を岩層とする相対的に古い自然堤防が発達し、縄文・弥生・古墳時代の遺跡が密集して形成されている（第5・6図）。その代表的な遺跡（古墳）が、西北出遺跡（岩倉市／縄文）、権現山遺跡（同／縄文・古墳）、大地遺跡（同／縄文・弥生）、小森遺跡（同／古墳）、馬見塚遺跡（一宮市／縄文・弥生・古墳）、三ツ井遺跡（同／縄文・弥生・古墳）、猫島遺跡（同／縄文・弥生）、蕉池遺跡（同／弥生）、伝法寺野田遺跡（同／弥生）、元屋敷遺跡（同／弥生・古墳）、西大門遺跡（同／弥生・古墳）、稻荷山古墳（同）、高塚古墳（西春町）、堤下遺跡（師勝町／縄文）、石塚遺跡（同／古墳）、能田旭古墳（同／古墳）である。なお、同じく五条川水系に属する朝日遺跡（春日町・清須市・名古屋市西区／縄文・弥生・古墳）は、中之郷北遺跡から下流方向へ約2.5kmの位置にある。

日光川水系の遺跡

一方で、日光川水系の一宮市西部域においても同様に古い自然堤防が発達し、弥生・古墳時代の遺跡の密集域が形成される。その代表的な遺跡（古墳）が、西上免遺跡（弥生・古墳）、今伊勢車塚古墳、八王子遺跡（弥生・古墳）、一宮西高校二子子遺跡（弥生）、北川田遺跡（弥生）、萩原中学校河田遺跡（弥生）である。



第3図 権現山遺跡の縄文土器

その両地域の中間地帯である青木川、三宅川水系の稻沢市域に発達する自然堤防は相対的に新しく、地表には低塑性粘土が厚く堆積する。この地域で遺跡形成が活発化するのは古代以降で、奈良時代には国府と国分寺が、市域東部の下津地区には鎌倉時代に鎌倉街道の宿駅として折戸宿（弘安年間以降、「折戸」は「下津」と表記）、



写真3 稲荷山古墳（左、一宮市指定史跡）と高塚古墳（右）

国府と守護所

室町時代に尾張国の守護所（下津城）が設置される。なお、尾張国府の所在が推定される稻沢市松下町付近は、宇福寺遺跡から西へ約3km、下津城跡と鎌倉街道は伝法寺本郷遺跡から西へ約1kmの位置にある。伝法寺本郷遺跡付近には九日市場、五日市場の地名が残り、正和3年（1314）の「六波羅御教書案」には「下津五日市」とあることから、下津宿との関係も窺われる。

五条川、青木川の両岸にそれぞれ立地する島崎遺跡、伝法寺本郷遺跡、中之郷北遺跡・宇福寺遺跡は、五条川水系の岩倉市や一宮市南東部域と青木川水系の稻沢市域両地域の特質を帯びていることは容易に想像される。また同時に、これらの遺跡が尾張地域の、地形発達史、土地利用史の動的な描写に欠くべからざる存在であることも明らかである。

文献

澄田正一・大參義一・岩野見司1967『新編一宮市史』資料編二
一宮市

大參義一・岩野見司1974『新編一宮市史』資料編四 一宮市
井間弘太郎1981『自然』『新修稻沢市史』研究編三 地理 稲
沢市

稲葉栄道他1990『新修稻沢市史』本文編上 稲沢市
海洋正倫1994『沖積低地の古環境学』古今書院

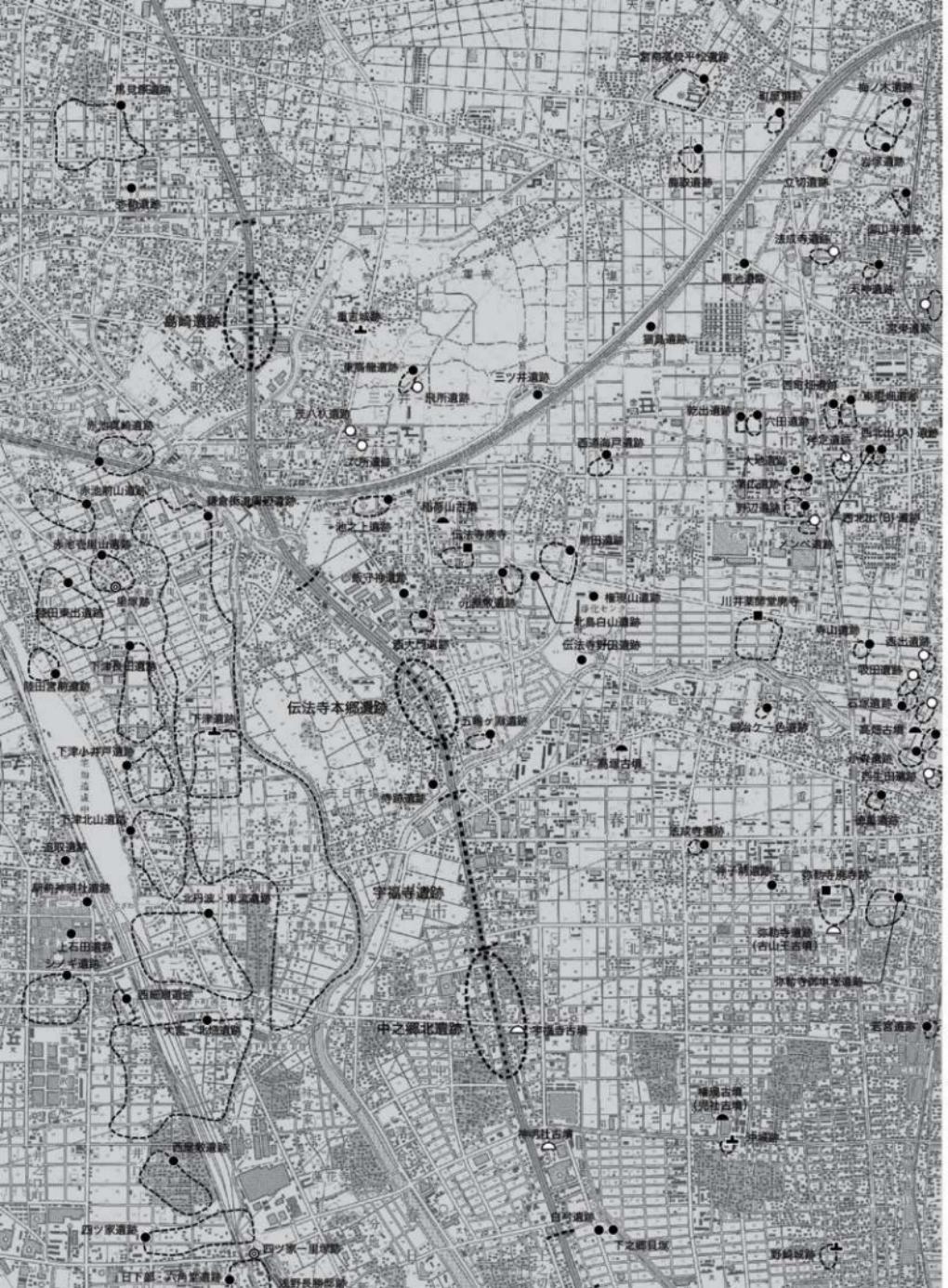
伊藤秋男編1994『高原古墳発掘調査報告書』西春町教育委員会
早野浩二編2003『椎現山道路』愛知県埋蔵文化財センター調査
報告書第110集 財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知
県埋蔵文化財センター



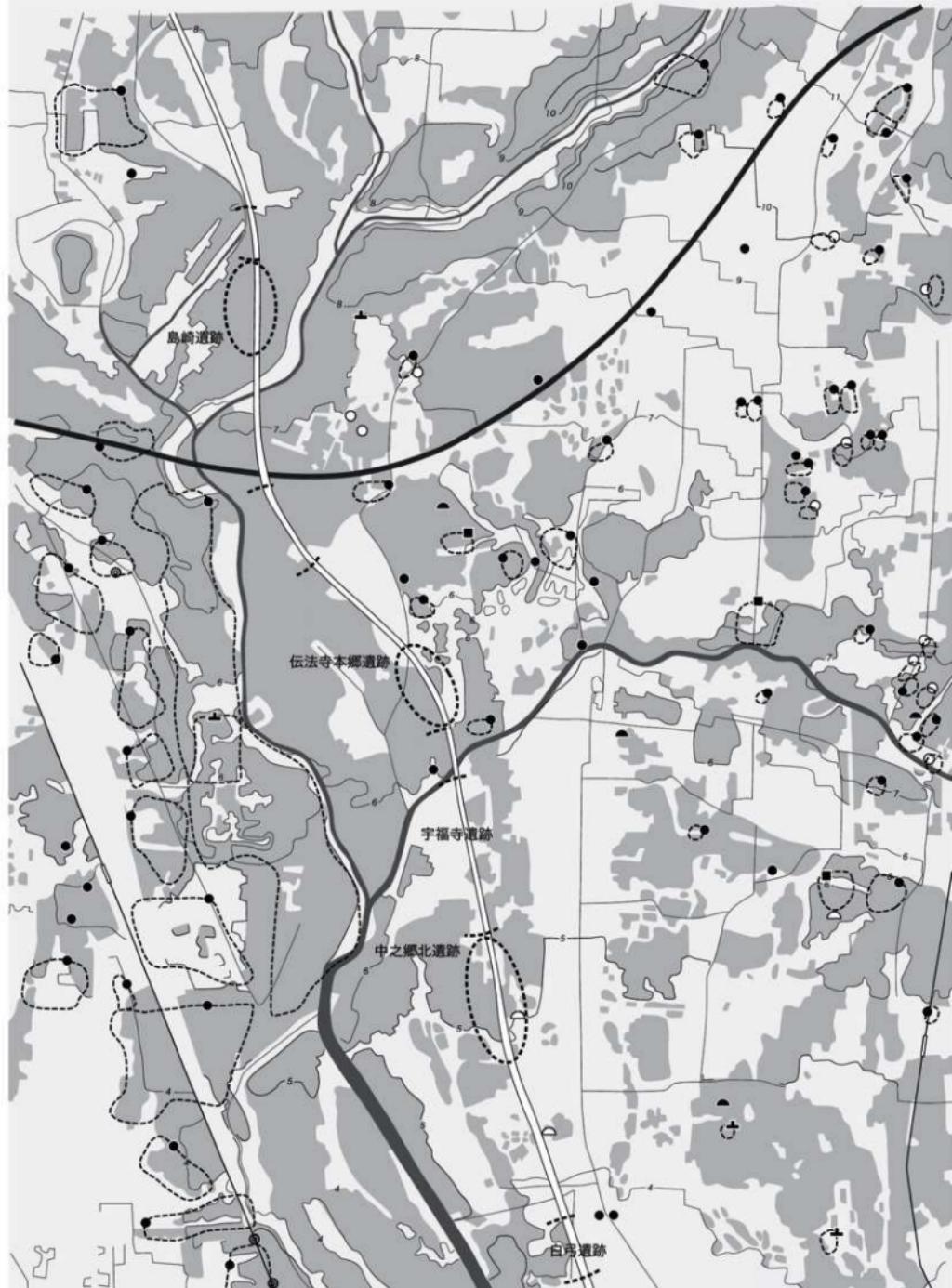
第4図 伝西大門遺跡の須恵器



写真4 現況の島畠（一宮市丹陽町三ツ井地区）



第5図 周辺の遺跡分布 (1:25,000)



第6図 遺跡周辺の地形 (1:25,000)

II 島崎遺跡

第1章 遺跡の環境

自然堤防帯

島崎遺跡は、遺跡の東側及び南側を、南北から北東—南西方向へと流れを変えながら走る青木川の右岸で、標高7m前後の自然堤防と後背湿地からなる自然堤防带上に立地している。この青木川に沿った自然堤防帯は幅500m程で、比較的安定していると考えられる。また北西側は千間堀川・緑葉川・大江川などの旧流路が入り組んでおり、微高地と低地が複雑な地形を形成している（第7図）。

第2章 調査の概要

調査の経緯

島崎遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなく、名岐道路（県道高速清州一宮線）建設に伴う試掘調査の結果、新たに確認された遺跡である。発掘調査は上記の道路建設の事前調査で、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。同線が国道22号線上の高架道路であるため、橋脚部分のみの調査を行うこととなった。そのため調査区は全長約400mの工区に計10箇所設定している。一つの調査区は200m²の面積で、合計2000m²になる。調査区は22号線の中央分離帯とその両側一車線分を囲む形で調査区及び工事ヤードが設定されている（写真5・6）。

10調査区を南からA～J区と呼称し（第8図）、順次調査を行っていった（写真7）。調査は、最上層である砂利敷石盛土層を重機で除去し、除去後の面を第1面とした。その

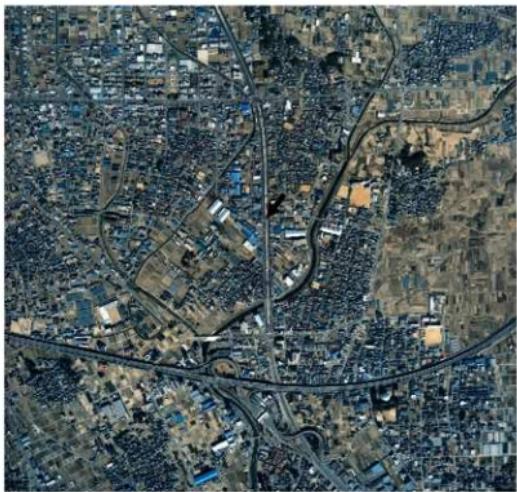


写真5 調査区の位置（矢印は島崎1丁目交差点）



第7図 遺跡周辺地形図 (1:25000) 「国土地理院 土地条件図」昭和49年発行に加筆

ため第1面に関しては一定の連続した遺構面ではなく、かつ削平された地点もみられた。また多くの調査区で第1面では水田跡が検出されたが、土層観察の結果、幾度かにわたって水田が設けられていたことが判明しており、その中の一部のみを抽出した結果となっている。その後河川堆積と思われる「しまりがない黄褐色砂」を掘削し、明黄褐色砂及び明オリーブ灰色砂層上面で第2面の検出を行っている。ただH区からJ区の北側については、ゆるやかに落ち込んでいくため、安定した地山面の検出が困難であった。



写真6 調査区遠景 (1: J区から南を、2: A区から北を)



第8図 調査区位置図 (1:8000)



写真7 調査風景 (3: A区、4: H区)

第3章 遺構・遺物

(1) A区

第1面(第10図)

一辺が3~3.5mの方形または長方形の水田が7区画検出された。畦畔は下端で70~90cm、上端が20~50cm、高さが約18cmで、部分的に畦畔に沿った幅30~50cm、深さ約20cmの溝が走る。時期は江戸時代後期~明治期になると思われる。

水田跡

第2面(第11図)

北東~南西方向に走る4本の溝、SD04・05・06・07(第9図)が検出されている。これらの溝は削平されて、深さが20~40cmと浅くなり、幅は100~150cmを測る。またSD06はSD05・07に切られている。時期はいずれも江戸時代後期になる。

溝群(江戸時代)

SK05・06・08・16・11・26・27に関しては、尾張地方を中心にみられる中世期の「方形土坑」の可能性がある。

方形土坑

遺物(第13図)

SK33出土の蓋(2)は外面に灰釉が施され、内面は無釉。内面には煤の付着がみられる。ST05では、培口縁部(3)、鉄軸が施された馬目皿(4)が出土する。SD07より出土した5は、常滑窯の口縁部を打ち欠いた後、下側面を磨面として用いているので、形を整えるため、上側面などに打ち欠きや研磨がなされている。2は内面に鉄軸が施された天目茶碗。6~7は山茶碗の底部を打ち欠いて整形された加工円盤。

(2) B区

第1面(第15図)

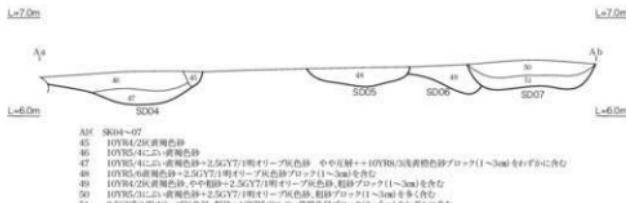
明黄褐色砂を埋土とする方形及び不定形な落ち込みが、5区画検出された。A区でみられたような明確な畦畔遺構は認められなかったが、同様な埋土であることから水田跡と認識した。時期は江戸時代後期~明治期と思われる。

水田跡

第2面(第16図)

調査区の大部分が、幅700・深さ60~100cmの溝SX01になる。SX01の断面形(第14図)はゆるやかな皿状を呈しており、北東~南西方向に走るが、南北部分で深くなる。埋土は

SX01



第9図 A区SD04・05・06・07土層断面 (1:50)

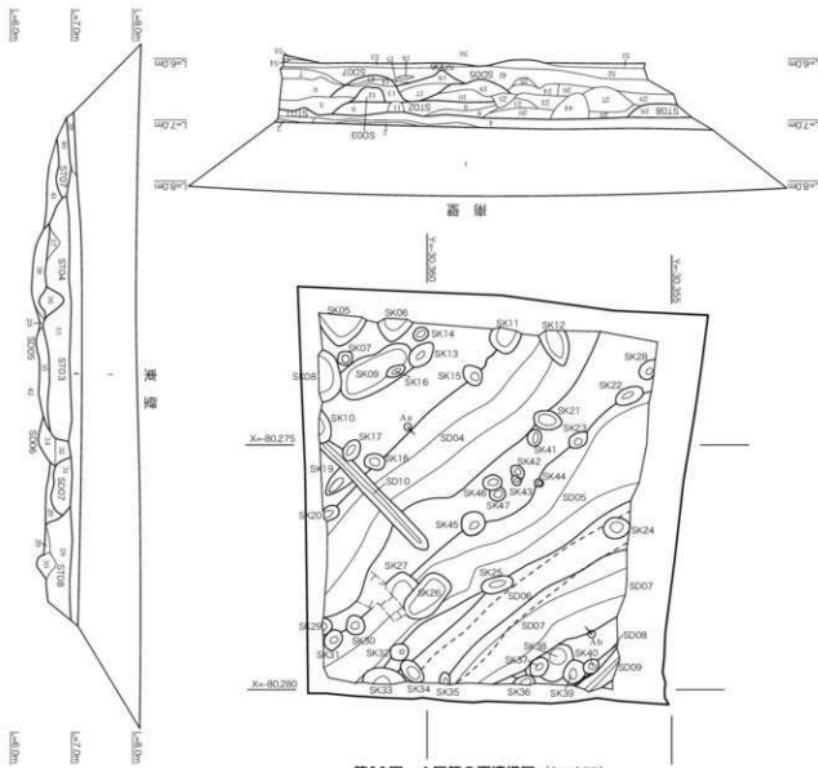


第10図 A区第1面遺構図 (1 : 100)



写真8 A区

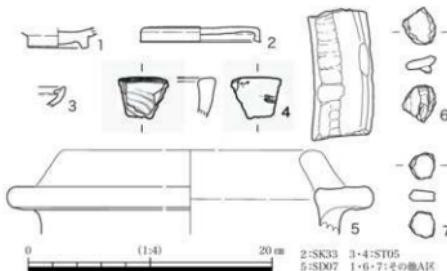
1 : 第1面 2 : 第2面検出状況 3・4 : 第2面



第11図 A区第2面透構図 (1:100)

- AK 複合区带
- 1 透水性岩石
 - 2 10BG7/7明黄色砂+粗分 砂中瓦屑
 - 3 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明黄色砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 4 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく
 - 5 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく+2.5GY7/1明オリーブ色砂ブロック(1cm)を含む
 - 6 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく
 - 7 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(5~10cm)
 - 8 10YR5/3-2-1-2透水性砂 しまりがなく
 - 9 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(1cm)を含む
 - 10 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく
 - 11 10YR5/3-2-1-2透水性砂 しまりがなく
 - 12 2.5Y5/5透水性砂 しまりがなく
 - 13 10YR5/3-2-1-2透水性砂+粗分混(5~10cm)
 - 14 10YR5/3-2-1-2透水性砂+粗分混(5~10cm)
 - 15 10YR5/3-2-1-2透水性砂
 - 16 10YR5/3-2-1-2透水性砂
 - 17 10YR5/3-2-1-2透水性砂
 - 18 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(1~3cm)を含む
 - 19 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂 粗分混(1~3cm)を含む
 - 20 2.5Y5/5透水性砂 中心しまりがなく(4cm)透水性砂+10BG7/1明黄色砂+粗分混(5~20cm)
 - 21 2.5Y5/5透水性砂 しまりがなく
 - 22 2.5Y5/5透水性砂 中心しまりがなく(4cm)透水性砂+10BG7/1明黄色砂+粗分混(5~20cm)
 - 23 2.5Y5/5透水性砂+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく(3cm)透水性砂+10YR5/3-2-1-2透水性砂(1~3cm)+2.5GY7/1明オリーブ色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 24 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく(4cm)透水性砂 中心粗分混(5~10cm)
 - 25 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混(5~10cm)
 - 26 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混(5~10cm)
 - 27 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混(5~10cm)
 - 28 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心しまりがなく(4cm)透水性砂 中心粗分混(5~20cm)
 - 29 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混(5~10cm)
 - 30 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(5~10cm)
 - 31 10YR5/3-2-1-2透水性砂+10YR5/3-2-1-2透水性砂+10BG7/1明黄色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 32 10YR5/3-2-1-2透水性砂+10BG7/1明黄色砂+粗分混(5~10cm)を含む
 - 33 2.5Y5/5透水性砂 しまりがなく
 - 34 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(5~10cm)を含む
 - 35 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 36 2.5Y5/5透水性砂 中心しまりがなく
 - 37 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(5~10cm)を含む
 - 38 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(1~5cm)を含む
 - 39 10YR5/3-2-1-2透水性砂+10YR5/3-2-1-2透水性砂+粗分混(5~10cm)
 - 40 2.5Y5/5透水性砂
 - 41 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混
 - 42 2.5Y5/5透水性砂 中心粗分混
 - 43 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(5~10cm)+化粧物
 - 44 2.5Y5/5透水性砂 中心粗分混 しまりがなく
 - 45 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混
 - 46 10YR5/3-2-1-2透水性砂
 - 47 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂 中心粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂+粗分混(1~3cm)を含む
 - 48 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(1~3cm)を含む
 - 49 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(1~3cm)を含む
 - 50 10YR5/3-2-1-2透水性砂+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混(1~3cm)を含む
 - 51 2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混
 - 52 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混
 - 53 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混
 - 54 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混
 - 55 10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混+2.5GY7/1明オリーブ色砂+粗分混+10YR5/3-2-1-2透水性砂 中心粗分混

第12図 A区東壁・南壁土層断面図 (1:80)



第13図 A区出土遺物実測図 (1:4)

黄褐色砂と明オリーブ灰色砂がやや互層状をなす。時期は12世紀後半から13世紀前半か。
遺物 (第18図)

SX01 出土の8・9は、南部系山茶碗の第3・4型式に比定され、11～15は山茶碗の底部を打ち欠いた加工円盤である。16は土師質の甕 (?) で、口縁端面が強いヨコナデにより引き伸ばされている。17は伊勢型鍋口縁部、18の山茶碗は南部系山茶碗の第3・4型式、21は山茶碗の底部を打ち欠いた加工円盤。19は中央に孔がある、扁平な円形の焼き物で、上・下面がケズリ成形される。20は呉須絵が描かれた磁器口縁部で、全体に強く研磨されている。

(3) C区

地山面である明オリーブ灰色砂・黄褐色砂面が標高7.3m前後と上昇し、それに伴い遺構深度が浅くなっている。

第1面 (第19図)

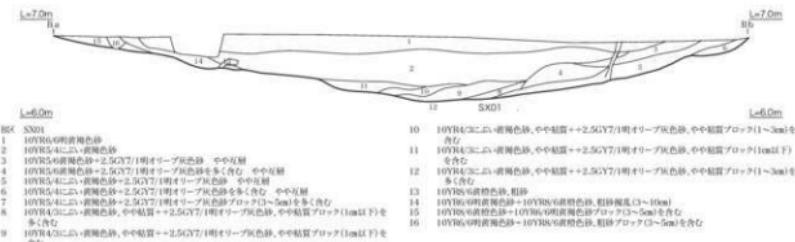
水田跡

B区と同様の方形及び不定形な落ち込みが検出された。畦畔はみられないが、形状から水田跡と考えられ、時期は江戸時代後期～明治期になる。

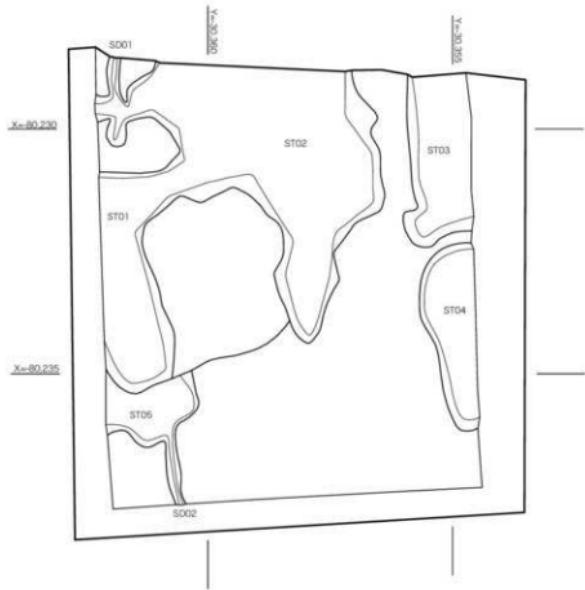
第2面 (第20図)

SK48・49

SK48・49は連続する大型土坑で、48が幅170cm・深さ80cm、49が幅120cm・深



第14図 B区SX01土層断面 (1:50)



第15図 B区第1面遺構図 (1:100)

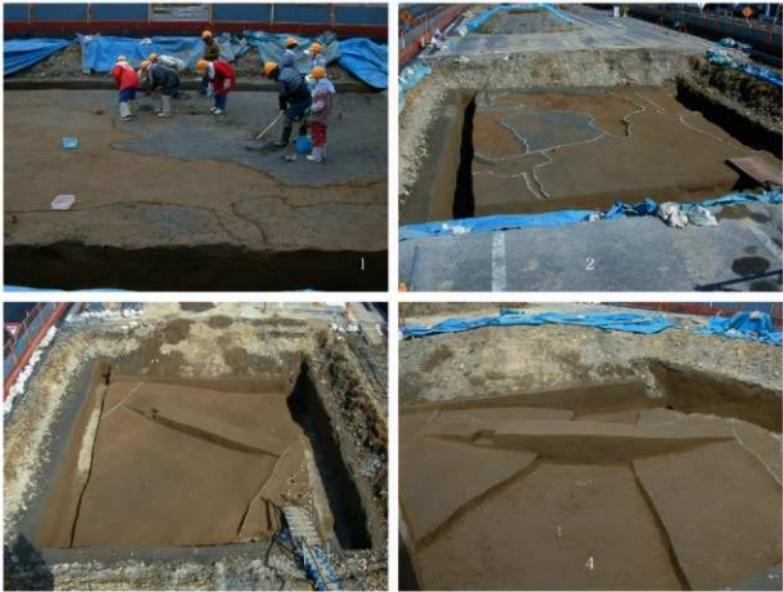
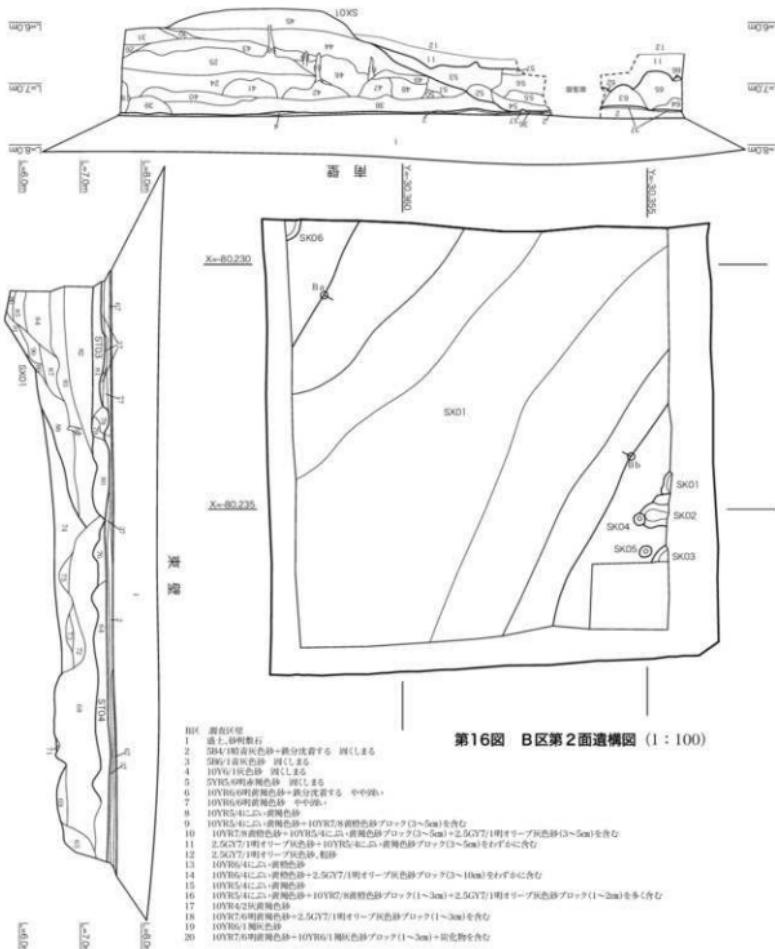


写真9 B区

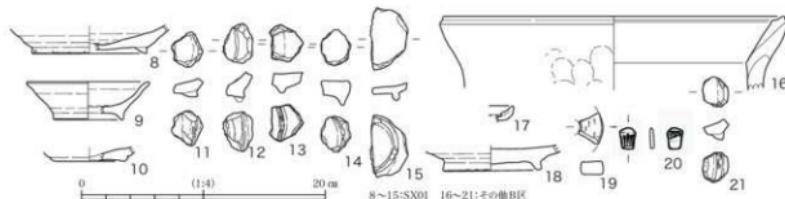
1 : 第1面検出状況 2 : 第1面 3 : 第2面 4 : SX01土層断面



第16図 B区第2面構造図 (1: 100)

- 21 10YR6/4褐色色鉛+10YR6/1褐色色鉛ブロック(1~3cm)を多く含む
22 10YR7/6褐色色鉛+10YR6/1褐色色鉛風化層(3~5cm)
23 10YR6/6褐色色鉛
24 10YR7/4C2褐色色鉛
25 10YR6/4褐色色鉛+10YR6/6褐色色鉛ブロック(1~3cm)を含む
26 10YR6/4褐色色鉛+10YR6/2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(3~5cm)を含む
27 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(3~5cm)を含む
28 10YR7/4C2褐色色鉛+10YR6/5C2褐色色鉛ブロック(3~5cm)を含む
29 10YR6/4褐色色鉛+10YR6/2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(3~5cm)を含む
30 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(3~5cm)を含む
31 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
32 2.GGY7/1明オーライト色鉛+10YR6/4C2褐色色鉛ブロック(1~3cm)
33 10YR6/4褐色色鉛+10YR6/4C2褐色色鉛ブロック(1~3cm)を含む
34 10YR6/2褐色色鉛+10YR6/4C2褐色色鉛風化層(3~5cm)
35 10YR6/3C2褐色色鉛+10YR6/4C2褐色色鉛ブロック(1~3cm)を含む
36 52S/6褐色色鉛
37 2.SY4/1褐色色鉛+10YR6/2褐色色鉛ブロック(1~3cm)+10YR6/2褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
38 2.SY4/1褐色色鉛+10YR6/2褐色色鉛ブロック(1~3cm)+10YR6/2褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
39 2.SY4/1褐色色鉛+10YR6/4C2褐色色鉛ブロック(1~3cm)を多く含む+風化物
40 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を多く含む+各色鉛
41 10YR6/4褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
42 10YR6/4褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
43 10YR6/3C2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
44 10YR6/2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む+中等程度風化
45 10YR6/2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む+中等程度風化+10YR6/4褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
46 10YR6/4C2褐色色鉛
47 10YR6/4C2褐色色鉛+2.SY4/1褐色色鉛風化層(3~10cm)+風化物
48 2.SY5/1褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1~5cm)を含む
49 10YR7/1褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1~5cm)を含む
50 10YR7/1褐色色鉛
51 10YR6/8褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1mm以下)+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
52 10YR6/8褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1~5cm)を含む
53 10YR6/8褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛ブロック(1~5cm)を含む
54 10YR6/1褐色色鉛+風化物
55 10YR6/1褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
56 10YR6/3C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)+2.5GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1~5cm)を含む
57 2.GGY7/1明オーライト色鉛ブロック(3~5cm)+10YR6/3C2褐色色鉛ブロック(3~5cm)を含む
58 10YR6/4C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む 10YR6/4C2褐色色鉛ブロッ
ク(1mm以下)を多く含む
59 10YR6/3C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
60 10YR6/3C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1~3cm)を含む+風化物
61 10YR6/4C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)を含む
62 10YR6/4C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1~3cm)を多く含む+北北東
63 10YR6/4C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)を多く含む
64 10YR6/2褐色色鉛
65 10YR6/4C2褐色色鉛+10YR6/8褐色色鉛ブロック(1mm以下)+2.5GY7/1明オーライト色鉛ブロック(3~
5cm)を含む
66 10YR6/4C2褐色色鉛+2.GGY7/1明オーライト色鉛風化層(3~10cm)
67 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1褐色色鉛風化層(3~10cm)+風化物
68 10YR6/4C2褐色色鉛
69 10YR6/4C2褐色色鉛+10YR6/2褐色色鉛
70 10YR6/4C2褐色色鉛
71 10YR6/4C2褐色色鉛+2.GGY7/1明オーライト色鉛風化層(3~10cm)
72 10YR6/4C2褐色色鉛+2.GGY7/1明オーライト色鉛+中等程度
73 10YR6/6褐色色鉛
74 10YR6/4C2褐色色鉛+2.GGY7/1明オーライト色鉛ブロック(1~5cm)を含む
75 10YR6/4C2褐色色鉛+2.GGY7/1明オーライト色鉛+中等程度
76 10YR6/2褐色色鉛
77 50GY7/1明オーライト色鉛+10YR6/8褐色色鉛風化層(3~5cm)+風化物
78 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1~5cm)を多く含む
79 10YR6/6褐色色鉛
80 10YR6/6褐色色鉛
81 10YR6/6褐色色鉛
82 10YR6/6褐色色鉛
83 10YR6/3C2褐色色鉛
84 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1mm以下)を含む
85 10YR6/4C2褐色色鉛+50GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1mm以下)を含む
86 10YR6/6褐色色鉛
87 10YR6/6褐色色鉛
88 10YR6/6褐色色鉛+50GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1mm以下)を含む+風化物
89 10YR6/6褐色色鉛+50GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1mm以下)を多く含む+砂質物
90 10YR6/6褐色色鉛+50GY7/1明オーライト色鉛ブロック(1mm以下)を多く含む+砂質物
91 10YR6/4C2褐色色鉛+2.GGY7/1明オーライト色鉛(3~10cm)を多く含む

第17図 B区東壁・南壁土層断面図 (1: 80)



第18図 B区出土遺物実測図 (1:4)

さ50cmを測る。両土坑は、同時期に掘削された可能性が高く、時期は江戸時代後期と考えられる。

調査区中央には、北東—南西方向に走るSD02がある。SD02は深さ15~30cmと浅く、上端の形状も不定形であるが幅250~500cmを測る。遺物が小片で時期の特定は難しいが、中世期であると思われる。

SX01の南側では総柱掘立柱建物の柱穴になるとと思われる柱穴が2×2間分(SB01)確認された。柱穴の大きさは径20~30cm・深さ7~10cmで円形・楕円形を呈する。周辺の土坑群も同様な形態であるので、柱穴になる可能性が高い。

(4) D区

地山面が標高7.4m前後とさらに高くなつたために、第1面遺構については確認できなかつた。

第2面(第22図)

SK14(第24図)は2段掘りで、長径270・短径230cm・深さ90cmを測るやや不定形な円形の土坑と、中央部やや東よりの場所に径60cm・深さ60cmのさらに深い土坑があり、北側には浅い不定形な土坑が付く。2段目の深い土坑を曲物等の構造物の痕跡とみると、井戸と考えられる。時期は13世紀か。SK14の南西側には、長径300・短径230cm・深さ50cmを測るやや不定形な楕円形の土坑SK51があり、周囲には浅い土坑SK09がめぐる(第24図)。両土坑とも時期は13世紀と思われる。またSK58も深掘りの結果、井戸と推定されたが、湧水のため断面の観察は不完全であった(写真11)。

SK01・05・06・27・30・34・37は軸線に規則性がみられ、平面形態も長方形を呈することから、中世期の「方形土坑」として認定した。埋土は擾乱・班土が平行堆積する(第25図)。大きさは長径が130~250cmで、深さは30~60cmを測る。

遺物(第26図)

22・24は南部系山茶碗の第6・7型式に比定される山茶碗底部と、体部を打ち欠いた加工円盤で、SK02出土の23も同時期となる。さらにSK09出土の26~29・32、SK30出土の36・37も同時期と考えられるが、27・32・37は北部系である。33は上・下・側面に研磨がみられるやや多孔質の石。SK14より出土した34は須恵器碗、35は北部系山茶碗である。40~43はSK51より出土したもので、43は北部系山茶碗第IV期、40・41は北部系山茶碗の底部を打ち欠いた加工円盤であるが、41は側面の一部に研磨がみられる。また42は体部下端を打ち欠いた後破面を研磨している。

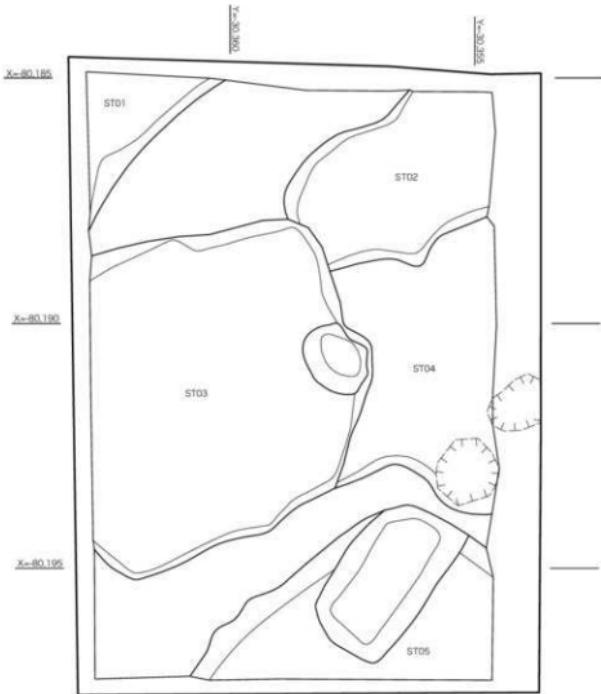
SD02

SB01

SK14

SK51・58

方形土坑



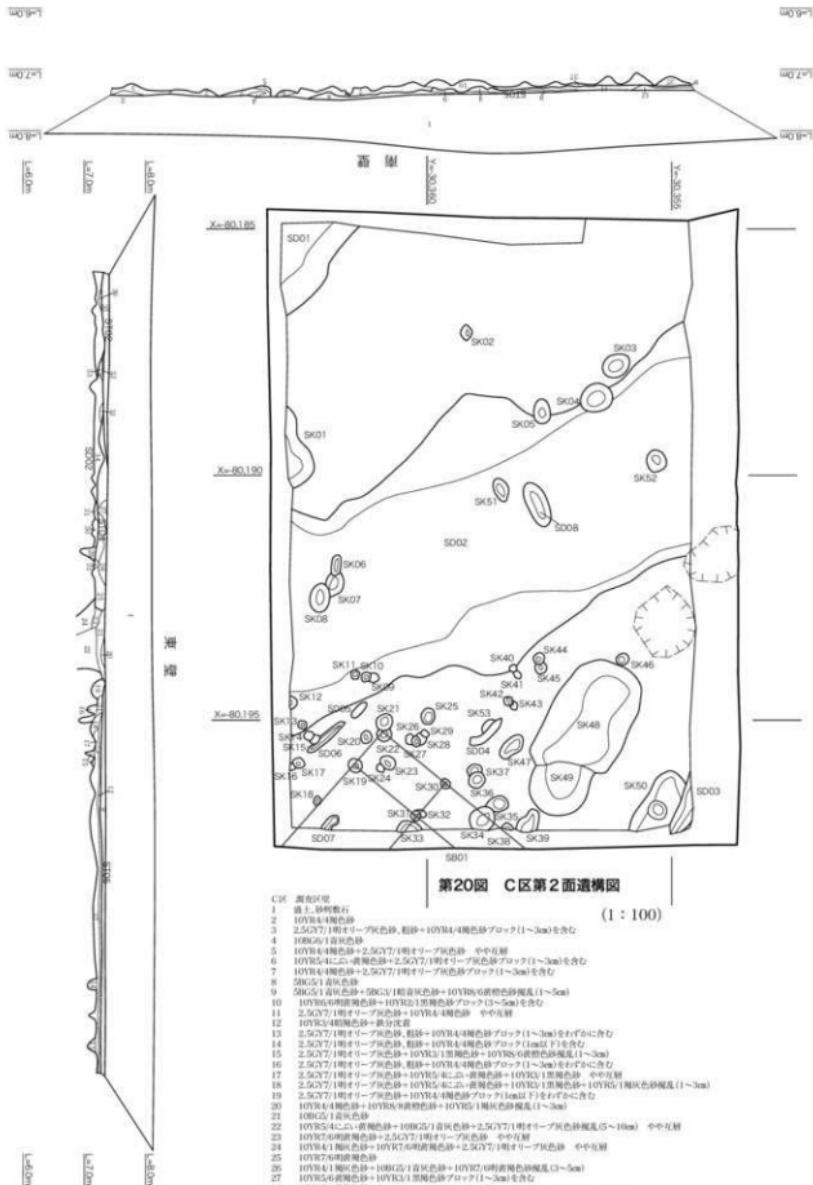
第19図 C区第1面遺構図

(1 : 100)



写真10 C区

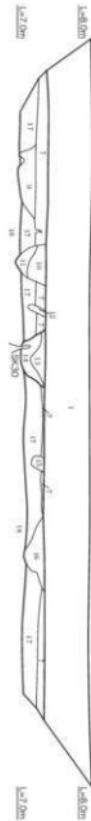
1 : 第1面検出状況 2 : 第1面 3・4 : 第2面



第20図 C区第2面透構図 (1:100)

第21図 C区東壁・南壁土層断面図 (1:80)

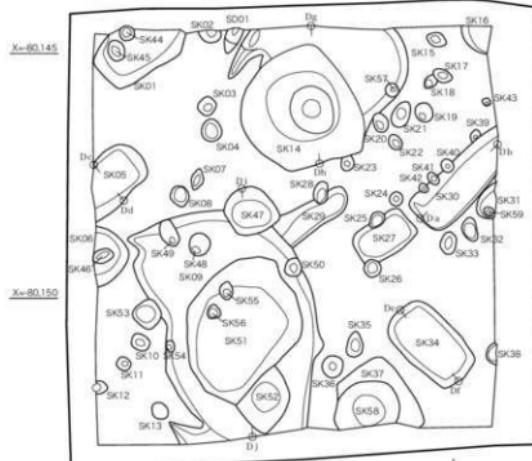
左



- D区 調査区域
1 盛土、砂利敷石
2 砂利敷石
3 10YR5/29 黄褐色沙+5G7/1明暗灰白色粉 中央互層
4 10YR5/29 黄褐色沙+10YR5/6暗黄色粉 瓦砾
5 10YR5/6暗黄色粉+2G7/1明暗灰白色粉 小石互層
6 10YR5/6暗黄色粉+10YR5/6暗黄色粉(10cm) 瓦砾
7 10YR5/1褐色沙+10YR5/6暗黄色粉ブロック(1~3cm)を多く含む
8 10YR5/6暗黄色粉+10YR5/6暗黄色砂質瓦(5~10cm)を多く含む
9 10YR5/6暗黄色粉+10YR5/6暗黄色砂質瓦(5~10cm)を多く含む
10 10YR5/6暗黄色粉+2.5G7/1明リグ(化粧フリット)5~10cmを多く含む
11 10YR5/6暗黄色粉+10YR5/6暗黄色砂質瓦(5~10cm)
12 10YR5/2褐色沙+10YR5/6暗黄色砂質ブロック(1~3cm)を多く含む
13 10YR5/2褐色沙+10YR5/6暗黄色砂質瓦(5~10cm)
14 10YR5/1褐色沙+10YR5/6暗黄色砂質ブロック(1~3cm)を多く含む
15 10YR5/1褐色沙+10YR5/6暗黄色砂質ブロック(1~3cm)を多く含む
16 10YR5/6暗黄色沙+10YR5/6暗黄色砂質瓦(5~10cm)を多く含む
17 10YR5/6暗黄色沙、粗砂、細砂、粗砂
18 2.5G7/1明リグ(化粧フリット)

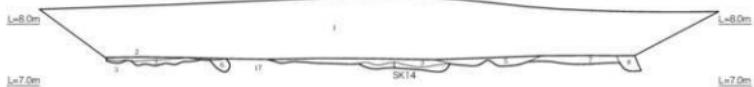
Y=80.305

Y=80.315



第22図 D区第2面造構図(1:100)

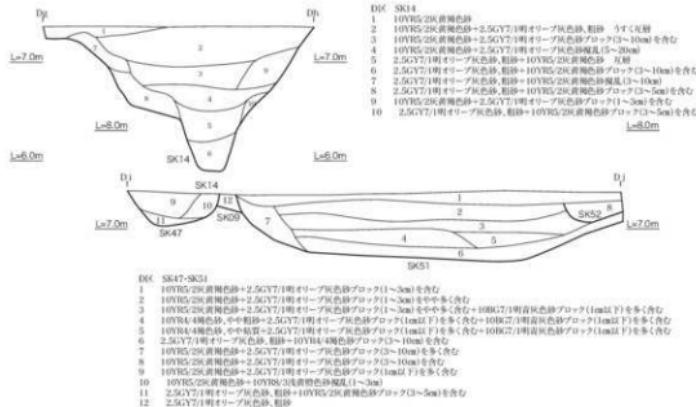
北壁



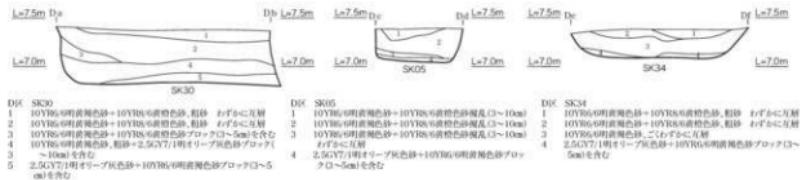
L=6.0m

L=6.0m

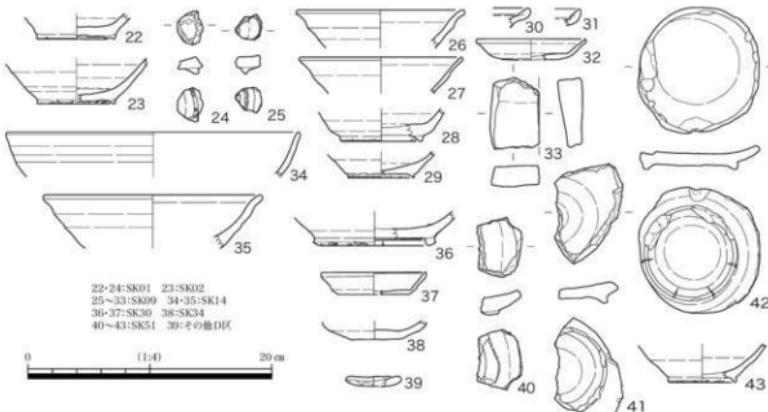
第23図 D区東壁・北壁土層断面図(1:80)



第24図 D区SK14、SK09・47・51・52土層断面 (1:50)



第25図 D区SK30、SK05、SK34土層断面 (1:50)





(5) E区

第1面 (第28図)

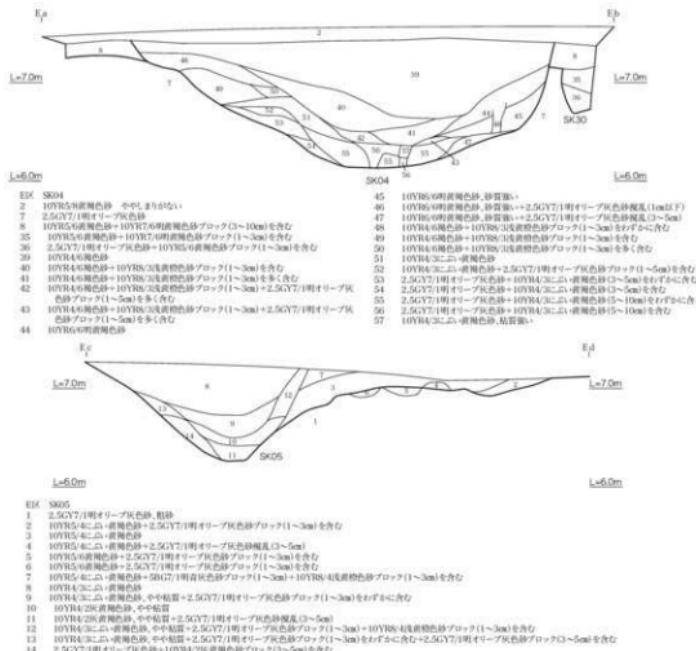
東西に走る幅200~250cm・深さ5~20cmの溝SD01や、それに切られる直角に屈曲する溝SD02、大型の土坑SK02、方形の土坑SK01などが検出された。SD01・02が江戸時代期~明治期であるため、周辺の遺構もこの時期に近接したものと考えられる。

第2面 (第29図)

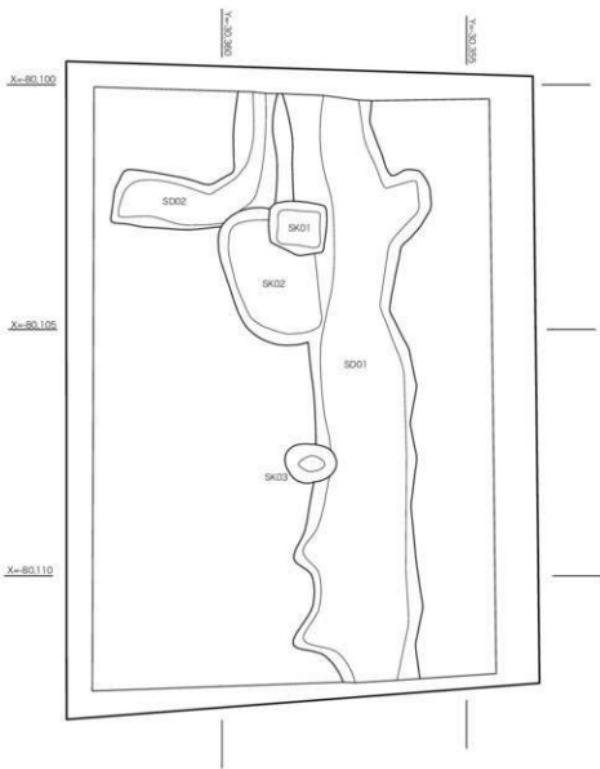
- SK04** SK04(第27図)は短径490cm・深さ120cmを測る楕円形を呈する土坑で、D区SK14と同様に深い2段の落ち込みが、曲物等の構造物の痕跡とすると、井戸と考えられる。同じく長径520cm・短径440cm・深さ95cmを測る楕円形の大型土坑SK05(第27図)も、明瞭な2段目の土坑はみられないが、井戸になると思われる。
- 溝群** 北東-南西方向に並行して走るSD03と05、これらの溝に直交するSD08とSD06・07がある。SD08はSK05部分で収束し、SD06と07間は同一の溝の途切れ部と考えられる。時期は13世紀か。
- SB01** また南部に展開する小型土坑群は、C区SB01と同様な掘立柱建物の柱穴になる可能性がある(SB01)。

遺物（第31図）

SK02では、陶丸（44）と捕鉢の体部を打ち欠いた後研磨した加工円盤が出土している。SK04より出土した46～52のうち、47は蓮弁文が施された青磁碗、48・52は伊勢型鍋、50は北部系山茶碗46・49・51は南部系山茶碗である。時期は南部系山茶碗の第4・5型式にあたる。53～74はSK05より出土した。53～62・64～67は南部系山茶碗の第6・7型式にあたる。55・64は北部系と考えられる。68～71は常滑製品で、68は子持器台の可能性があり、69～71は鉢・片口鉢になる。72～74は南部系山茶碗の体部下端部分が、地面に平行に円弧状に打ち欠かされている。82は上・下・側面に研磨がみられる石製品。



第27図 E区 SK04、SK05 土層断面 (1:50)



第28図 E区第1面遺構図 (1:100)

(6) F区

第1面 (第33図)

水田跡

調査区中央部より南に南北に延びる幅140cm・深さ7cmの溝SD01と、西側に展開する水田跡ST01・02が検出された。時期は江戸時代後期～明治期か。

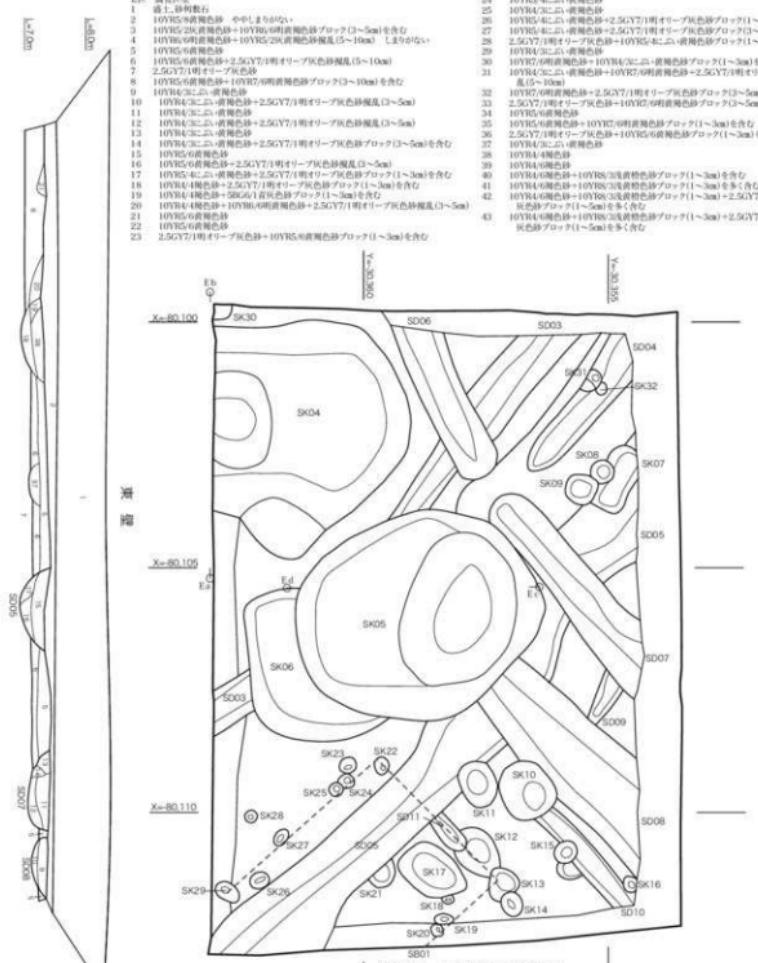
第2面 (第34図)

調査区西側にみられる不定形な溝SD02～11に関しては、耕作痕と考えられるもので、第2面で検出しているが、第1面に属する可能性が高い。

方形土坑

北東～南西方向の同一軸線をもつSK41・45・51・52は、方形土坑群と考えられる。このうちSK52に切られているSK51(第32図)は、平面形がほぼ正方形を呈し、最上

- E区 谷戸区段
- 1 通土・砂質石灰
 - 2 10YR5/2(暗赤褐色) 中中粒ながい
 - 3 10YR5/2(暗赤褐色)+10YR6/6(黄褐色) 黄褐色ブロック(3~5cm)を含む
 - 4 10YR6/6(黄褐色) 黄褐色砂凝風(5~10cm) しまきQz
 - 5 10YR5/6(暗褐色)
 - 6 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(5~10cm)
 - 7 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色
 - 8 10YR5/6(暗褐色)+10YR7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風ブロック(3~10cm) を含む
 - 9 10YR4/3(暗褐色)
 - 10 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3~5cm)
 - 11 10YR4/3(暗褐色)
 - 12 10YR4/3(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3~5cm)
 - 13 10YR4/3(暗褐色)
 - 14 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3~5cm) を含む
 - 15 10YR5/6(暗褐色)
 - 16 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3~5cm)
 - 17 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む
 - 18 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む
 - 19 10YR4/4(暗褐色)+5GY6/1(青灰色) 黄褐色砂凝風(1~3cm) を含む
 - 20 10YR4/4(暗褐色)+10YR5/6(暗褐色) 黄褐色砂凝風+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3~5cm)
 - 21 10YR5/6(暗褐色)
 - 22 10YR5/6(暗褐色)
 - 23 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色+10YR5/6(暗褐色) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む

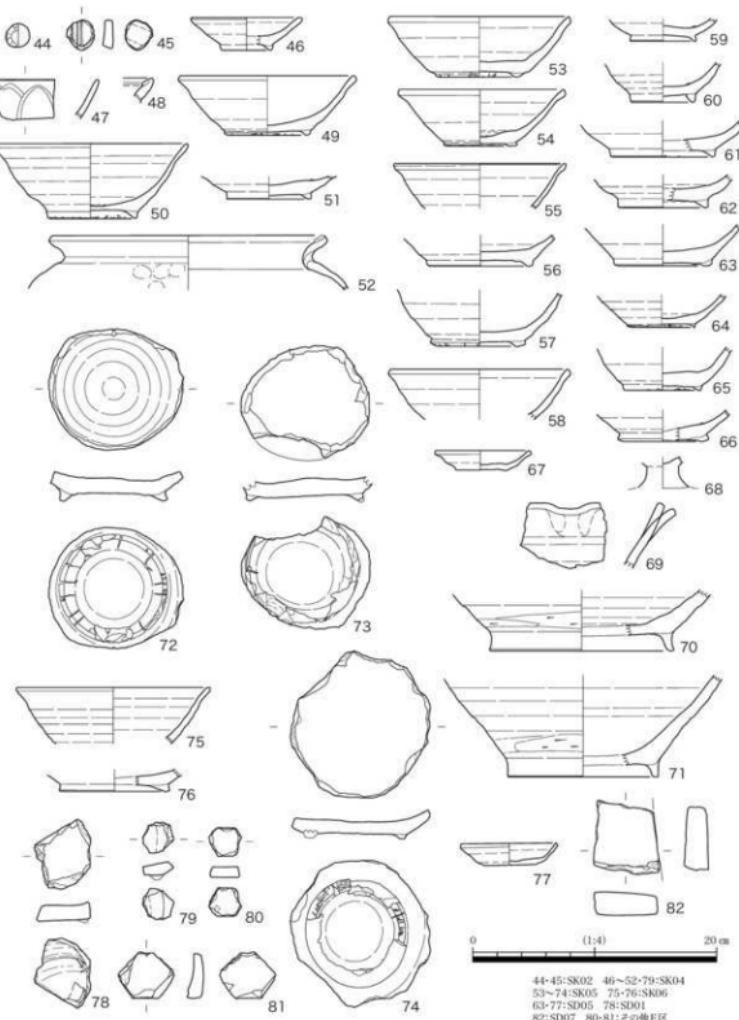


第29図 E区第2面遺構図

(1:100)

- 44 10YR5/6(暗褐色)
- 45 10YR5/6(暗褐色) (砂質層)
- 46 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3cm以下)
- 47 10YR5/6(暗褐色) (砂質層)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風(3~5cm)
- 48 10YR5/6(暗褐色)+10YR5/6(暗褐色) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む
- 49 10YR5/6(暗褐色)+10YR5/6(暗褐色) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む
- 50 10YR5/6(暗褐色)+10YR5/6(暗褐色) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む
- 51 10YR4/3(暗褐色)
- 52 10YR5/6(暗褐色)+2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色砂凝風ブロック(1~3cm) を含む
- 53 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色+10YR4/3(暗褐色) 黄褐色砂凝風(3~5cm) を含む
- 54 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色+10YR4/3(暗褐色) 黄褐色砂凝風(3~5cm) を含む
- 55 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色+10YR4/3(暗褐色) 黄褐色砂凝風(3~10cm) を含む
- 56 2.5GY7/1(明オリーブ) 黄褐色+10YR4/3(暗褐色) 黄褐色砂凝風(3~10cm) を含む
- 57 10YR4/3(暗褐色)

第30図 E区東壁・北壁土層断面図 (1:80)



第31図 E区出土遺物実測図 (1:4)

44~45:SK02 46~52,79:SK04
53~74:SK05 75~76:SK06
63~77:SD05 78:SD01
82:SD07 80~81:その他のE区

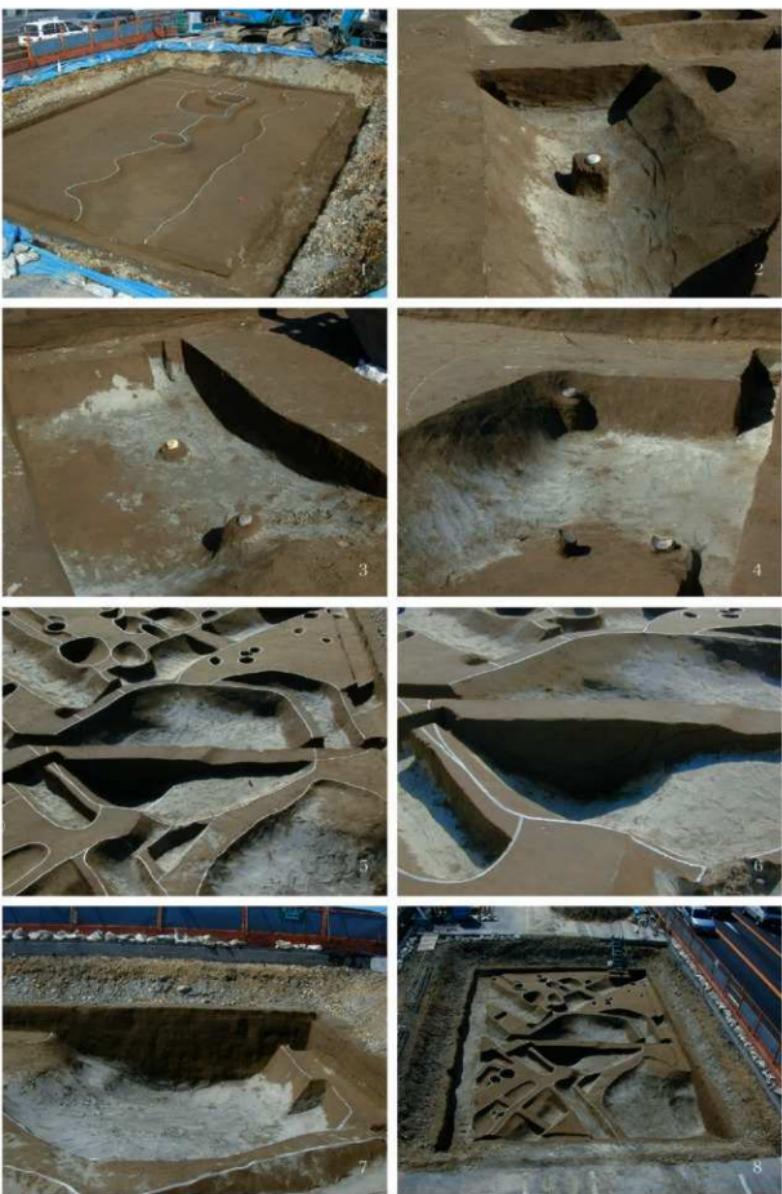
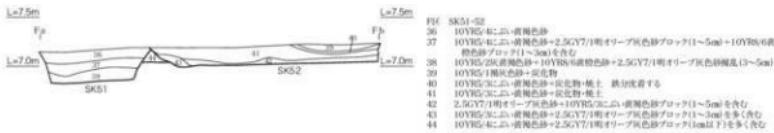


写真12 E区

1 : 第1面 2 : SD05遺物出土状態 3 : SK04遺物出土状態・4 : SK05遺物出土状態
5 : SK05 6 : SK05土層断面 7 : SK04土層断面 8 : 第2面



第32図 F区SK51・52土層断面 (1:50)

錢貨 層より錢貨が8枚（第36図M1～M9）、同一の高さで出土している。またSK51に隣接するSK49でも錢貨が1枚（第36図M10）、同じく最上層より出土している。これらの土坑の時期は13世紀になると考えられる。北壁際にある大型土坑SK01は径200cm・深さ70cmを測る。時期は13世紀。

柵 (SA01～03) 検査区の北側では柵と考えられる土坑列が2列（SA01・02）認められ、さらにその外側の土坑（SK18・20）も柵になる可能性がある（SA03）。時期は不明であるが、埋土より中世期になると思われる。

遺物（第37図）

SK01では、南部系の山茶碗（84・85）、北部系山茶碗小皿（86）、伊勢型鍋が出土する。SK05より出土した南部系山茶碗小皿（87）の底部外面には墨書きがみられる。SK52には、第6型式となる山茶碗・小皿（89～92・95）、伊勢型鍋（93）、常滑製品鉢（94）があり、92・95の底部外面には墨書きが書かれている。またSK54出土の南部系山茶碗（96）の底部外面にも墨書きがみられる。SD01では、南部系山茶碗（97・98）と山茶碗底部を用いた加工円盤（99）が出土する。105は鉄軸を施した壺、106はナデ調整された陶器である。加工円盤（100～104）のうち、100は鉄軸がかけられた捕鉢、103は焼き締め陶、その他は山茶碗を加工している。

（7）G区

第1面（第39図）

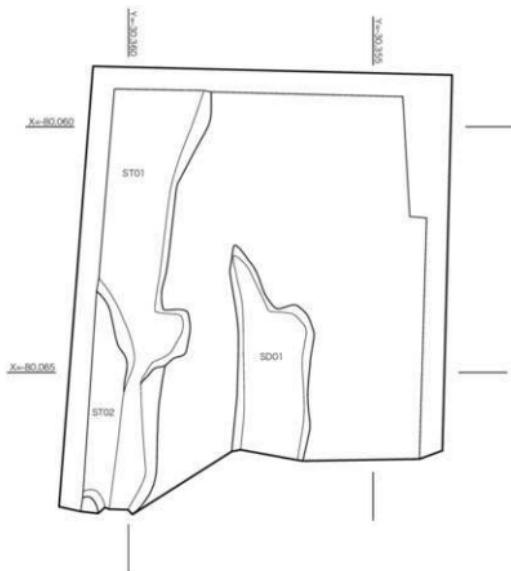
水田跡 検査区西半部が、深さ10～15cmを測る水田跡ST01となる。時期は江戸時代後期～明治期か。

第2面（第40図）

柵 (SA01) 北東から南西にかけて走るSD01は、幅約100cm・深さ約40cmを測る。時期は13世紀後半～14世紀になる。また同方向に走るSA01（SK21・20・25・31）も中世期になる可能性が高い。

遺物（第38図）

SD01では、第V期北部系山茶碗（113）、南部系山茶碗の底部を用いた加工円盤（114）が出土している。

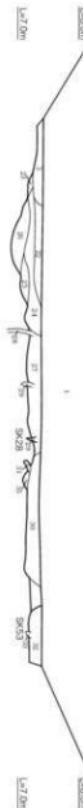


第33図 F区第1面造構図 (1:100)

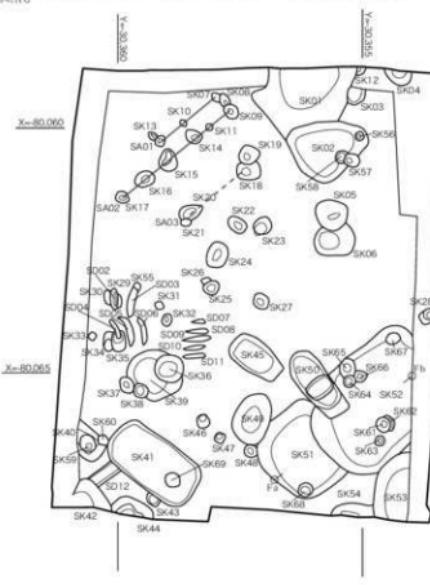


写真13 F区

1: 第1面 2: 第2面 3: SK51・52土層断面 4: SK51銭貨出土状態

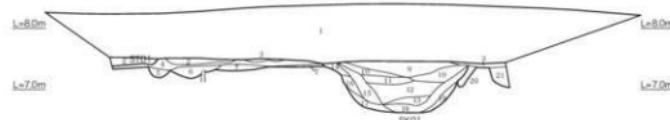


- F区
断面図
1 通路、砂利石
2 50cm×1m高黄色砂
3 50cm×1mに亘る10YR5/4に亘る黄褐色砂複屈曲
4 10YR5/4に亘る黄褐色砂、部分沈没する
5 10YR5/4に亘る黄褐色砂+10YR8/6の褐色色砂複屈曲(3~5cm)
6 10YR8/6(3~5cm)、黄褐色砂+10YR8/6の褐色色砂複屈曲(3~5cm)を含む
7 10YR5/4に亘る黄褐色砂+10YR8/6の褐色色砂複屈曲(3~5cm)を含む
8 10YR5/4に亘る黄褐色砂+10YR8/6の褐色色砂複屈曲(3~5cm)を含む
9 10YR5/4に亘る黄褐色砂
10 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(m厚)+10YR8/6の褐色色砂複屈曲(3~5cm)を含む
11 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(1m厚)+10YR7/6の褐色色砂複屈曲(1m厚)を含む
12 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(3~5cm)を含む
13 10YR4/3に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(3~5cm)を含む
14 10YR4/3に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(3~5cm)
15 10YR4/3に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(3~10cm)
16 2.5(Y7/7)のオーリープ色砂、粗砂+10YR5/4に亘る黄褐色砂複屈曲(3~5cm)を含む
17 2.5(Y7/7)の明るいオーリープ色砂、粗砂+10YR5/4に亘る黄褐色砂複屈曲(3~5cm)を含む



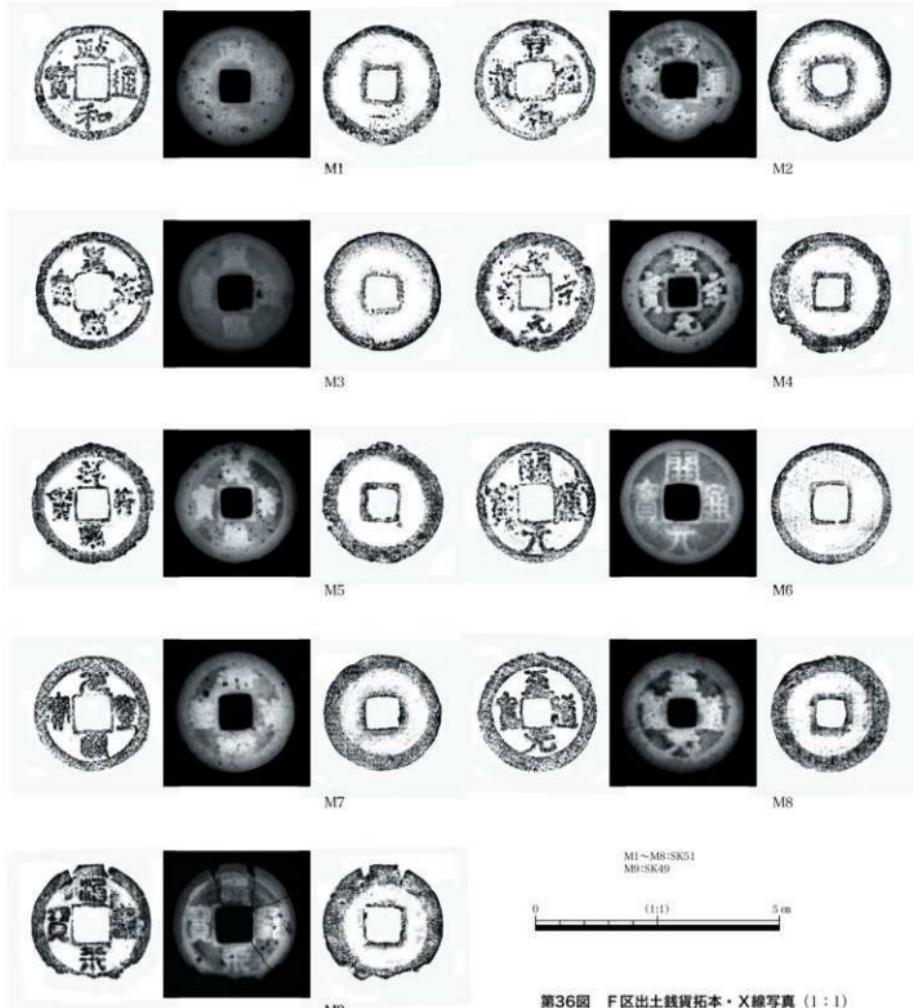
第34図 F区第2面透構図 (1:100)

北壁



- 37 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(1~5cm)+10YR8/6の褐色色砂複屈曲(1~3cm)を含む
38 10YR5/4に亘る黄褐色砂+10YR8/6の褐色色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(3~5cm)
39 10YR5/4に亘る黄褐色砂
40 10YR5/4に亘る黄褐色砂+灰白色砂、部分沈没する
41 10YR5/4に亘る黄褐色砂+灰白色砂
42 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(1~5cm)を含む
43 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(1~3cm)を含む
44 10YR5/4に亘る黄褐色砂+2.5(Y7/7)のオーリープ色砂複屈曲(1m以下)を多く含む

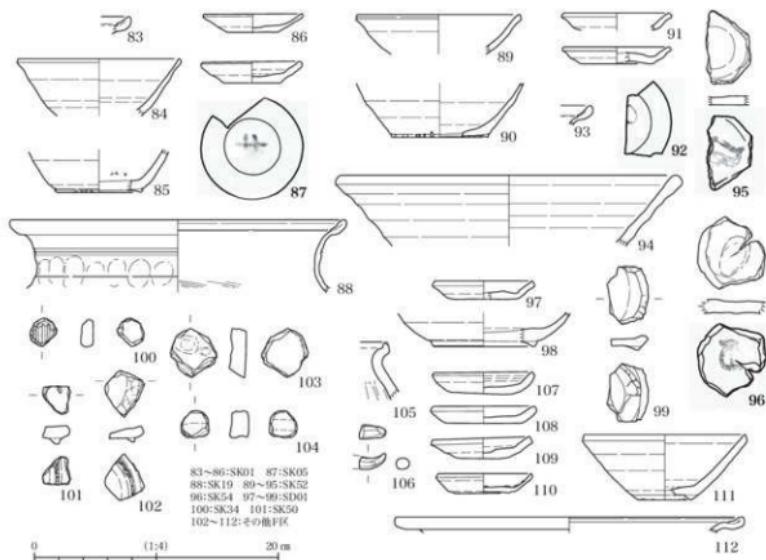
第35図 F区東壁・北壁上層断面図 (1:80)



第36図 F区出土銭貨拓本・X線写真 (1:1)

表2 F区出土銭貨一覧表

番号	調査区	グリッド	遺構	銭貨名	国・王朝	初継年	縦(mm)	横(mm)	厚(mm)	備考
M1	00F	IG14i	SK51	政和通寶	北宋	1111	24.77	24.53	1.50	背下月?
M2	00F	IG14i	SK51	宣和通寶	北宋	1119	25.12	25.31	1.19	
M3	00F	IG14i	SK51	○○○寶			24.73	24.25	1.81	
M4	00F	IG14i	SK51	聖宋元寶	北宋	1101	24.95	25.18	1.35	
M5	00F	IG14i	SK51	●祥符元寶	北宋	1009	25.03	25.19	1.78	
M6	00F	IG14i	SK51	開元通寶	南唐	960	25.37	25.20	1.66	
M7	00F	IG14i	SK51	元豐通寶	北宋	1078	24.43	24.59	1.30	
M8	00F	IG14i	SK51	至道通寶	北宋	995	24.99	24.99	1.36	
M9	00F	IG14i	SK49	治平通寶	北宋	1064	(24.12)	24.95	1.48	



第37図 F区出土遺物実測図 (1:4)

(8) H区

第1面としての明確な遺構群を検出することはできなかった。また地山面が標高6.2m前後と、G区に比べて1m近く、I区と比較しても0.3m程低くなり、第2面の遺構・遺物も少ない。

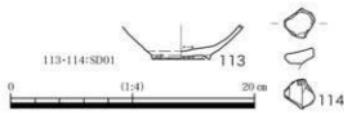
第2面 (第43図)

方形土坑

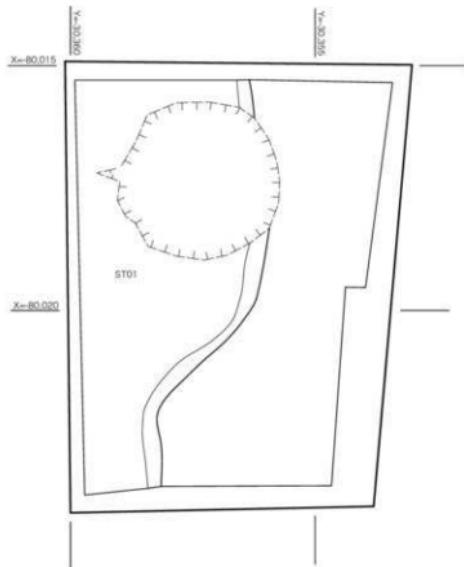
SK01は長径100cm・短径63cm・深さ10cmを測り、平面形が隅丸方形を呈し小型であるが、長径155・深さ13cmを測るSK02を含め、15世紀の「方形土坑」と考えられる。SD01は13世紀の溝。

遺物 (第42図)

SK01出土の115は第IX期北部系山茶碗、116は南部系山茶碗の底部を使用した加工円盤になる。



第38図 G区出土遺物実測図 (1:4)



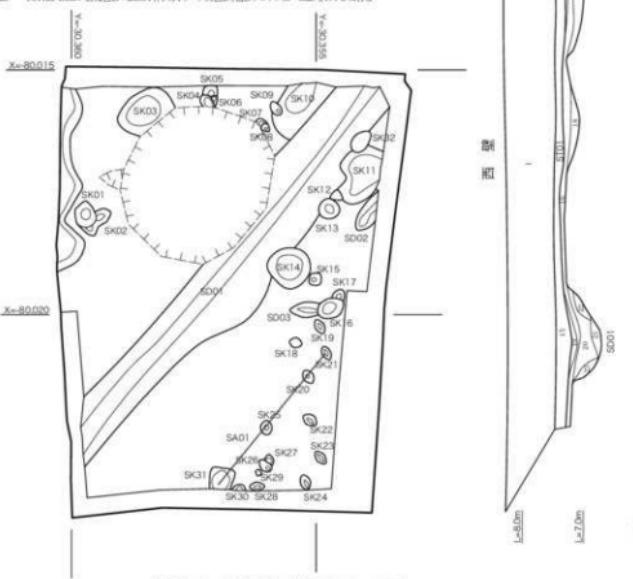
第39図 G区第1面遺構図 (1 : 100)



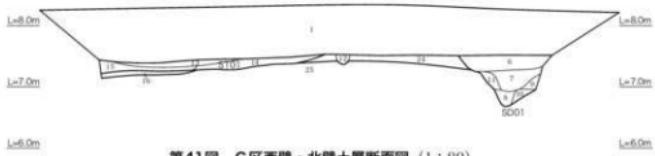
写真14 G区

1 : 第1面 2 : 第2面 3 : SD01土層断面 4 : SD01遺物出土状態

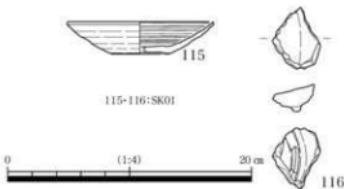
- G区 調査区域
 1 通土、砂利敷石
 2 10YRS/6(暗褐色)砂、粗砂+10YR5/4(灰)・黄褐色色砂(3~10cm)を含む
 3 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂、粗砂+10YR5/4(灰)・黄褐色色砂混在(5cm)
 4 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂
 5 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂、粗砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 6 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂
 7 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 8 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂混在(5~10cm)
 9 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を多く含む
 10 2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂+10YR5/4(灰)・黄褐色色砂混在(3~5cm)を含む
 11 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を多く含む
 12 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 13 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂、L.さりげな
 14 2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂+10YR5/4(灰)・黄褐色色砂混在(5~20cm)を多く含む
 15 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂
 16 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂混合なし
 17 10YR5/4(灰)・中粗砂
 18 10YR5/6(暗褐色)砂、粗砂+10YR5/4(灰)・黄褐色色砂混在(5~10cm)、中粗砂まじがない
 19 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂
 20 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 21 2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂+10YR5/4(灰)・黄褐色色砂混在(3~5cm)を含む
 22 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂混在(5~10cm)
 23 10YR5/4(灰)・黄褐色色砂+2.5GY7/1(明オリーブ)灰色色砂、粗砂ブロック(3~5cm)をわざわざ含む



第40図 G区第2面造構図 (1:100)
北壁



第41図 G区西壁・北壁土層断面図 (1:80)



第42図 H区出土遺物実測図 (1:4)

(9) I区

第1面 (第45図)

江戸後期～明治期の水田跡である、幅400～500cm・深さ3～10cmの連続する方形区画が6区画確認された。ST06部分では5基の土坑が検出されている。

水田跡

第2面 (第46図)

第1面の水田跡床面の直下から掘り込まれた溝SD01 (第49図)が検出された。幅130cm・深さ30cmを測るSD01は、下端西側には土坑列がみられ、時期は江戸時代後期以降になる。

SD01

第3面 (第47図)

明黄褐色砂を挟んだ約30cm下位でSD02・03が検出された (第50図)。SD02は幅100・深さ60cm、SD03は幅120cm・深さ65cmで、第2面で検出されたSD01とほぼ同じ位置で同じ方向を向く。また南東部は明黄褐色砂によって削平を受けて残存していない。時期は江戸時代後期か。このSD02・03と直交するように、幅150cm・深さ35cmを測る溝SD04がある。

溝群

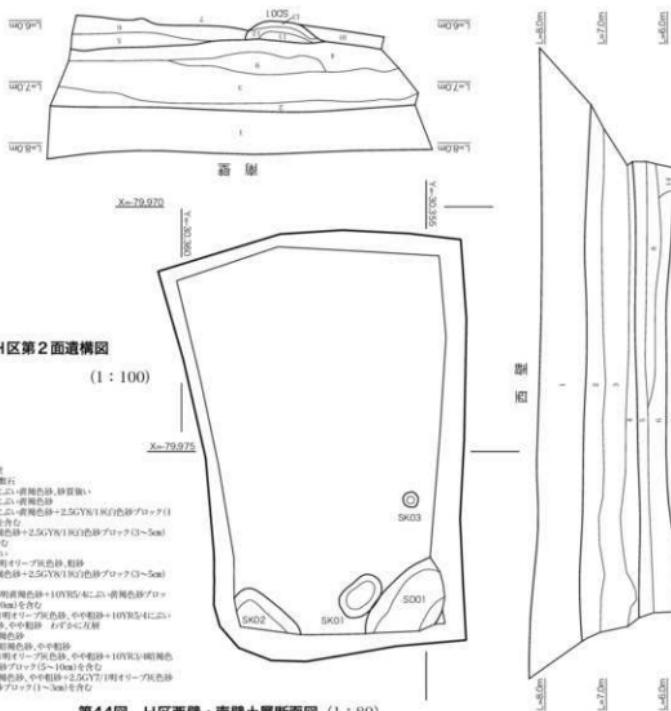
中世期の「方形土坑」と思われるものとして、SK13・15が検出されるが、出土遺物からは確定できなかった。

方形土坑

遺物 (第51・52図)

ST06出土の117は灰釉が施される江戸時代後期の丸皿。SK10出土の118とSD02出土の120は、常滑製品の三筋壺。SD01出土の119は観片で、側面が破損後に研磨されている。SD03出土の121は内面と体部上半に灰釉が施される椀、SD04出土の石製品(122)は上下面と側面の一部が研磨されている。124は須恵器杯蓋のつまみ部、125は蓮弁文をもつ青磁碗、126は常滑製品の羽釜になる。127は灰釉が、132は鉄釉が施された壺。129は常滑製品の甕口縁、130・131は土師質の茶釜形鍋と内耳鍋。M10は鉄製の刀子になる。加工円盤は、山茶碗の底部部分を打ち欠いて整形しているものが多いが、164は山茶碗、163・165は鉄釉施釉製品の体部を加工している。また163・157は側面に研磨がみられる。

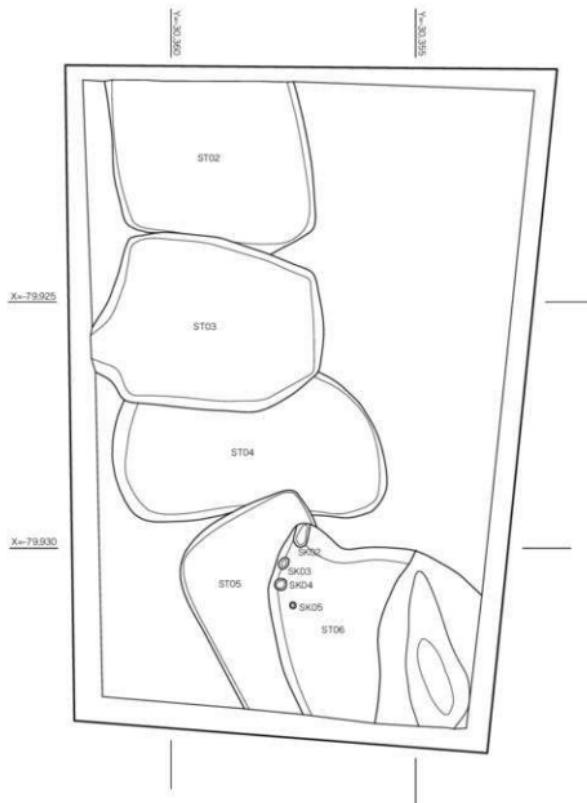
加工円盤



第44図 H区西壁・南壁土層断面図 (1 : 80)



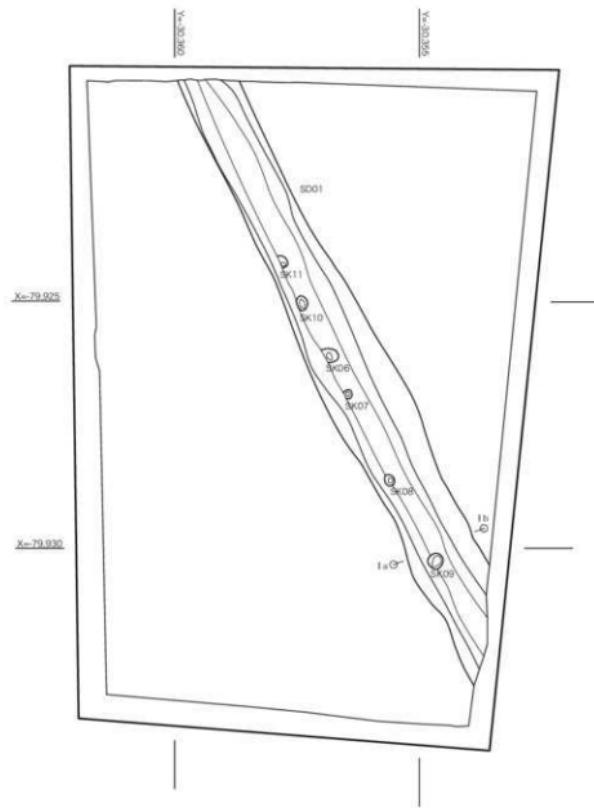
写真15 H区



第45図 I区第1面遺構図 (1 : 100)



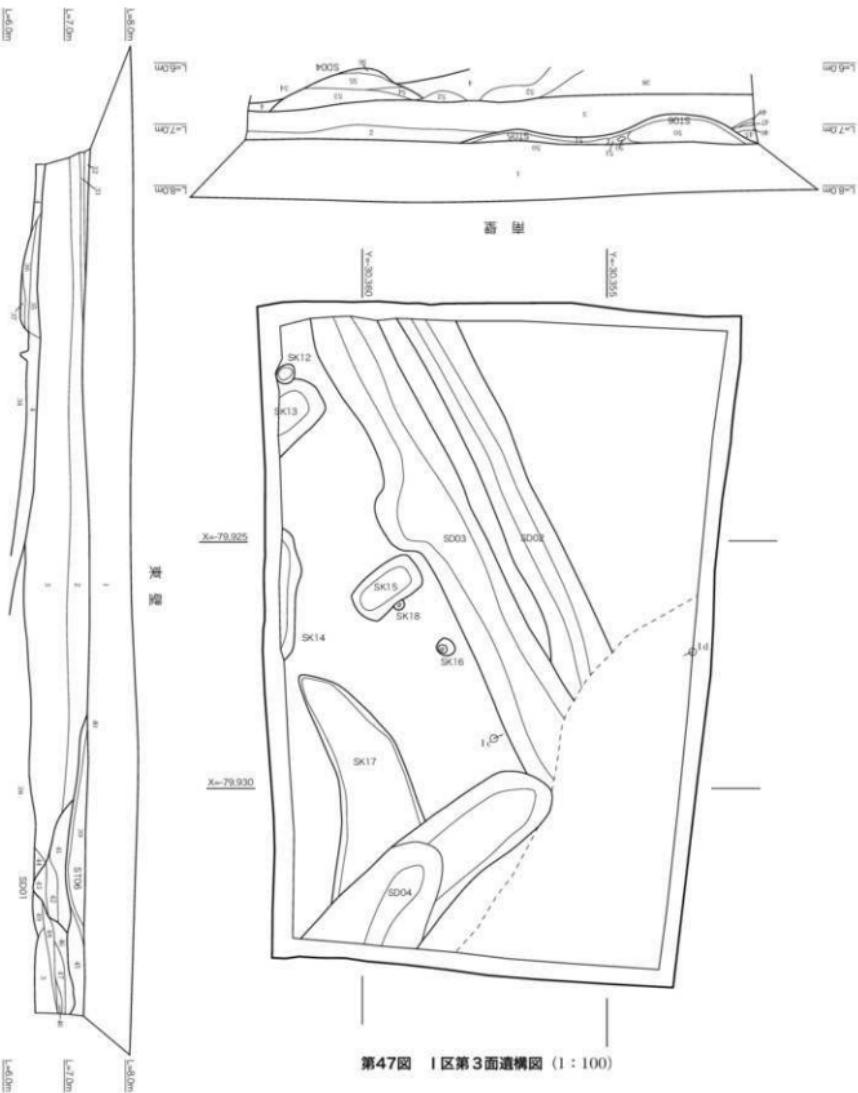
写真16 I区第1面 1・2：第1面



第46図 I区第2面遺構図 (1 : 100)

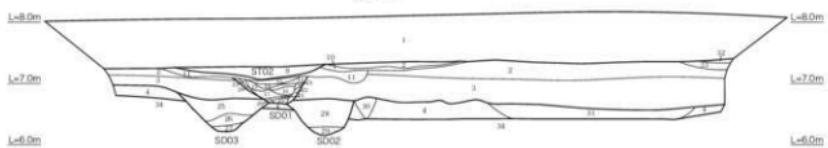


写真17 I区第2面 1・2：第2面



第47図 I区第3面造構図 (1:100)

北壁



第48図-1 I区東壁・北壁土層断面図 (1:80)

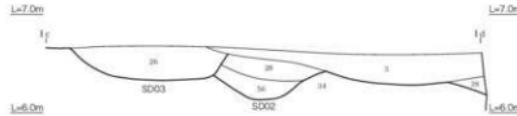
II-C 薄青色層

- 1 10YR6/6明薄青色沙+10YR8/4浅薄青色沙プロック(1~2cm)を多く含む
- 2 10YR6/6明薄青色沙+10YR8/4浅薄青色沙プロック(1~2cm)を多く含む
- 3 2.5GYN/10(赤鉄)、EB9+10YR6/6明薄青色沙、やや粗粒風化(5~10cm)
- 4 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 5 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 6 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 7 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 8 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 9 2G7/1(赤鉄)、EB9、やや粗粒
- 10 10YR6/4(二)、赤鉄、粗粒、粗粒風化(5~10cm)を多く含む
- 11 10YR6/6明薄青色沙+10YR6/20(赤鉄)プロック(1~2cm)を多く含む
- 12 10YR6/6明薄青色沙+10YR6/20(赤鉄)プロック(1~2cm)を多く含む
- 13 10YR6/4(二)、赤鉄、粗粒、粗粒風化(5~10cm)を多く含む
- 14 2B7/1(赤鉄)、EB9+10YR6/5(赤鉄)を多く含む(薄青色風化)(1~5cm)
- 15 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 16 2B7/1(明赤鉄)、やや粗粒、粗粒風化、やや粗粒、粗粒風化、やや粗粒、粗粒
- 17 10YR6/4(二)、赤鉄、粗粒、粗粒風化(5~10cm)を多く含む
- 18 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 19 5B7/1(明赤鉄)、やや粗粒、粗粒風化(5~10cm)を多く含む
- 20 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 21 10YR6/4(二)、赤鉄、粗粒、粗粒風化(5~10cm)を多く含む
- 22 10YR6/4(二)、赤鉄、粗粒、粗粒風化(5~10cm)を多く含む
- 23 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 24 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 25 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 26 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 27 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 28 10YR6/6明薄青色沙、やや粗粒+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9、やや粗粒プロック(1~2cm)を多く含む
- 29 10YR6/6明薄青色沙、半粗粒+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9、やや粗粒プロック(1~2cm)を多く含む
- 30 10YR6/6明薄青色沙

第48図-2 I区東壁・北壁土層断面土色

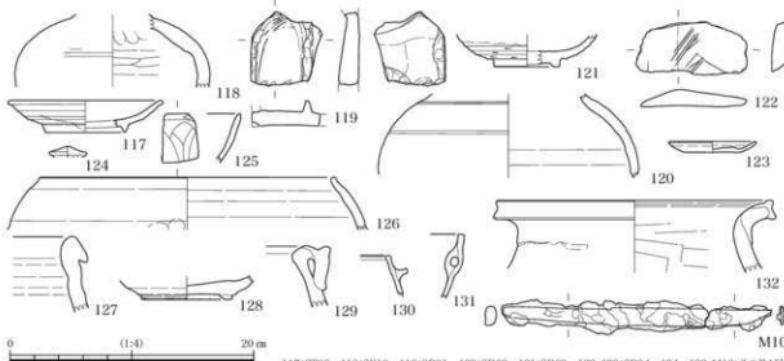


第49図 I区SD01土層断面 (1:50)



- 3 10YR6/6明薄青色沙
- 26 10YR6/6明薄青色沙、やや粗粒+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9、やや粗粒プロック(1cm以下)を多く含む
- 28 10YR6/6明薄青色沙、やや粗粒+2.5GYN/10(赤鉄)、EB9、やや粗粒プロック(1~2cm)を多く含む
- 34 2.5GYN/7/1明オーラー(赤鉄)、粗粒
- 38 10YR6/6明薄青色沙+2.5GYN/7/1明オーラー(赤鉄)、EB9プロック(1~2cm)を多く含む
- 50 10YR6/6明薄青色沙+10YR6/6明薄青色沙プロック(1~2cm)+粘状の鉄砂(0.5cm以下)を多く含む
- 51 10YR6/6明薄青色沙+10YR6/6明薄青色沙プロック(1~2cm)+粘状の鉄砂(0.5cm以下)を多く含む
- 52 10YR6/6明薄青色沙+10G7/1明粗赤色EB(1cm以上)を多く含む
- 53 10YR6/6明薄青色沙+10G7/1明粗赤色EB(1cm以上)を多く含む
- 54 10G7/1明粗赤色EB+10YR6/6明薄青色沙、やや互層
- 55 10YR6/6明薄青色沙+10G7/1明粗赤色EBプロック(1~3cm)を多く含む
- 56 2.5GYN/7/1明オーラー(赤鉄)、粗粒+10YR6/6明薄青色沙プロック(1cm以下)を多く含む

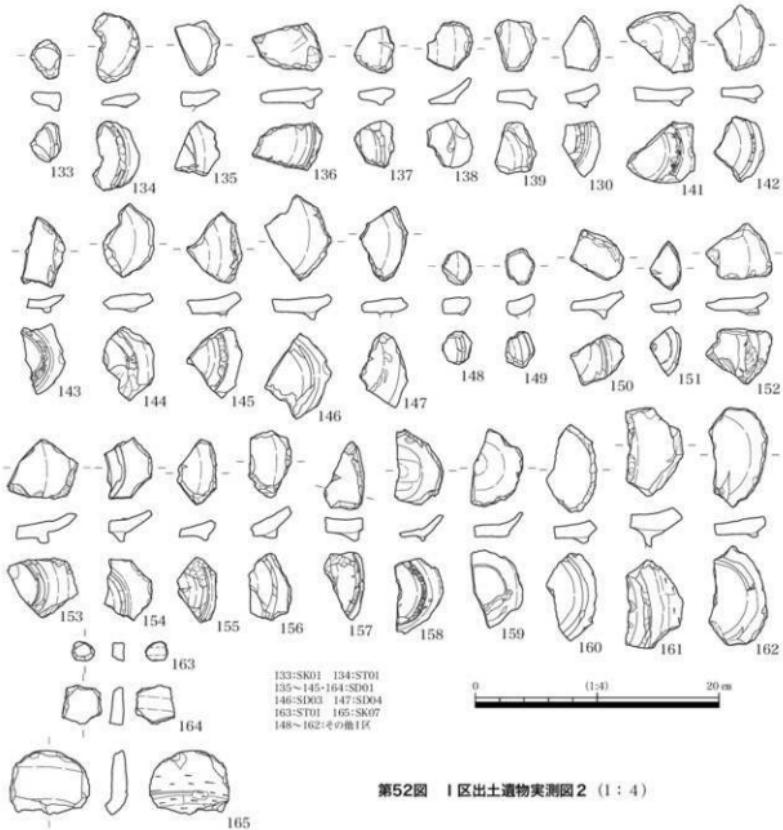
第50図 I区SD02・3・03土層断面 (1:50)



第51図 I区出土遺物実測図1 (1:4)



写真18 I区第3面 1・2:第3面



第52図 I区出土遺物実測図2 (1:4)

(10) J 区

第1面（第53図）

水田跡

調査区北西部と北東部で4区画の水田跡と思われる区画(ST01～04)と、土坑(SK01)、溝(SD01)を検出している。時期は江戸時代後期～明治期か。

第2面（第54図）

SK02

円形を呈するSK02は径140cm・深さ60cmを測り、上層より176の北部系山茶碗が出土している。時期は15世紀。SK09・11については、中世期の「方形土坑」になる可能性があるが、出土遺物では確定できなかった。

遺物（第56図）

SK02出土の166は北部系第IX期の山茶碗、167は常滑製品の玉縁口縁壺、SK10出土の168は口縁部がヨコナデ調整される土師質皿、SD01出土の169は江戸後期の灰釉が施された皿になる。SK22出土の170は、焼き締め陶の体部を用いた加工円盤、171は上・側面に磨痕、側・下面に敲打痕がみられる石製品で、ST04出土の176も敲打の痕跡が残る。ST01出土の172は南部系山茶碗第3型式の小椀、173は陶丸、ST03出土の174はヨコナデ調整される土師質皿、175は第X期の北部系山茶碗。177～180は北部系山茶碗、181は土師質皿、182・184は青磁碗、183は白磁碗、186・188は土師質の羽釜、187は鉄釉が施された瓶、189・190は鉄釉の擂鉢、191は灰釉がかかる丸椀、192は鉄釉壺になる。193～196の加工円盤のうち、193は鉄釉製品を整形しており、側面に研磨がみられる。

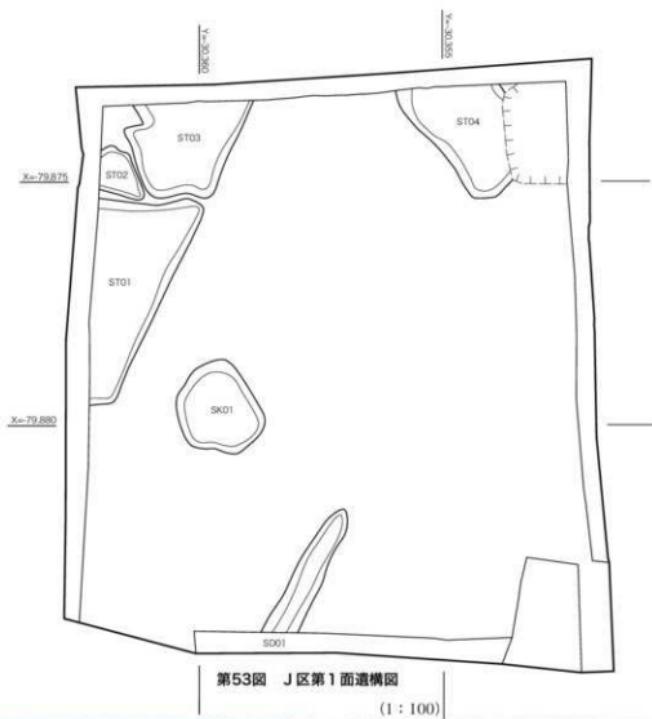
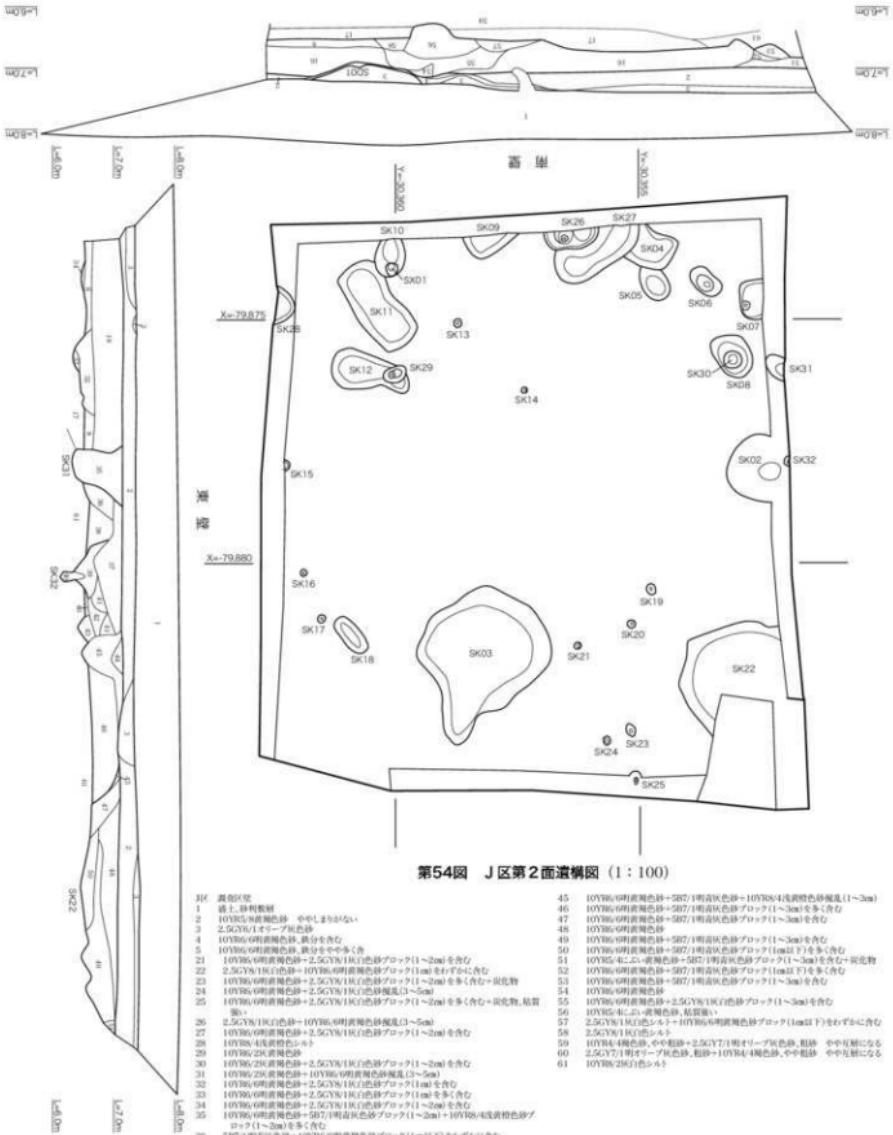


写真19 J区

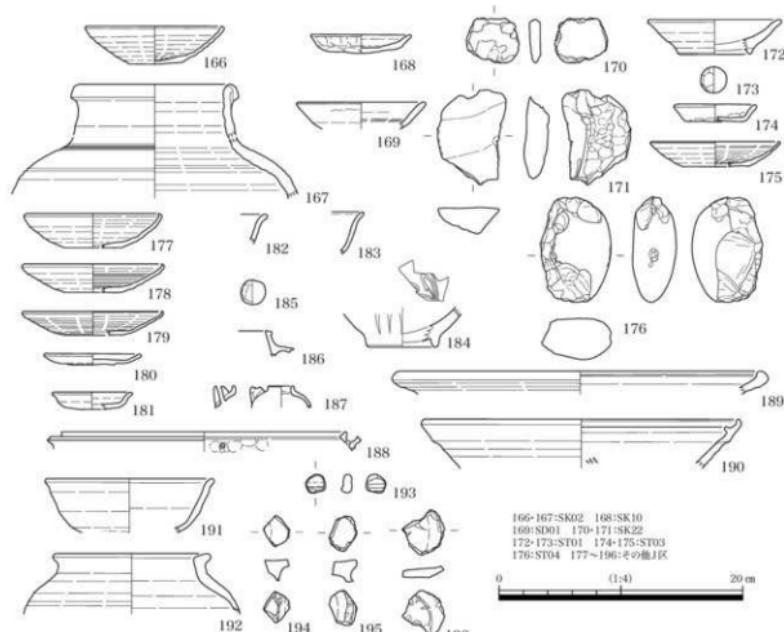
1 : 第1面 2 : SK01遺物出土状態 3・4 : 第2面



第54図 J区第2面遺産図 (1:100)

- J区 真島区間
 1 透水性岩
 2 10YR5/8褐色色鉛、ややしまりがない
 3 2.5G7(1)1.7(2)褐色色鉛、ややしまりがない
 4 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む
 5 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 6 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 7 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 8 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 9 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 10 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 11 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 12 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 13 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 14 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 15 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 16 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 17 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 18 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 19 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 20 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 21 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 22 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 23 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 24 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 25 10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 26 2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 27 10YR6/6褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 28 10YR6/4褐色色鉛、シルト
 29 10YR6/6褐色色鉛、シルト
 30 10YR6/2褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 31 10YR6/2褐色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、軟弱を含む多く含む
 32 10YR6/6褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 33 10YR6/6褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 34 10YR6/6褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 35 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 36 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 37 10YR6/6褐色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 38 5B7(1)明青灰色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 39 5B7(1)明青灰色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 40 5B7(1)明青灰色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 41 5B7(1)明青灰色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 42 5B7(1)明青灰色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 43 5B7(1)明青灰色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 44 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 45 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 46 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 47 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 48 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 49 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 50 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 51 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 52 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 53 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 54 10YR6/6褐色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、5B7(1)明青灰色色鉛、シルト
 55 10YR6/6褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 56 10YR6/6褐色色鉛、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 57 2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、10YR6/6褐色色鉛、シルト
 58 2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、シルト
 59 10YR6/6褐色色鉛、やや粗粒、2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、粗粒
 60 2.5G7(1)1.8(2)褐色色鉛、粗粒
 61 10YR6/6褐色色鉛、シルト

第55図 J区東壁・南壁土層断面図 (1:80)



第56図 J区出土遺物実測図 (1:4)

第4章まとめ

島崎遺跡は、青木川に沿って、右岸に形成された自然堤防上に立地する。自然堤防は幅約500mを測り、北東から南西に帯状に延びる。南から南東側は青木川、北から北西は手間堀川などの旧流路がみられ、低地部分になっている。特に北から北西については、流域の変化などで、旧流路は蛇行した複雑な様相を示し、不安定な地盤の地域であったことが判る(第57図)。

遺跡はこの細長い自然堤防帶のほぼ中央部の、最も高位と思われる部分に立地する。また遺跡の中心部と考えられるC～G区は、その中でもさらに高い場所に営まれている(第57図)。

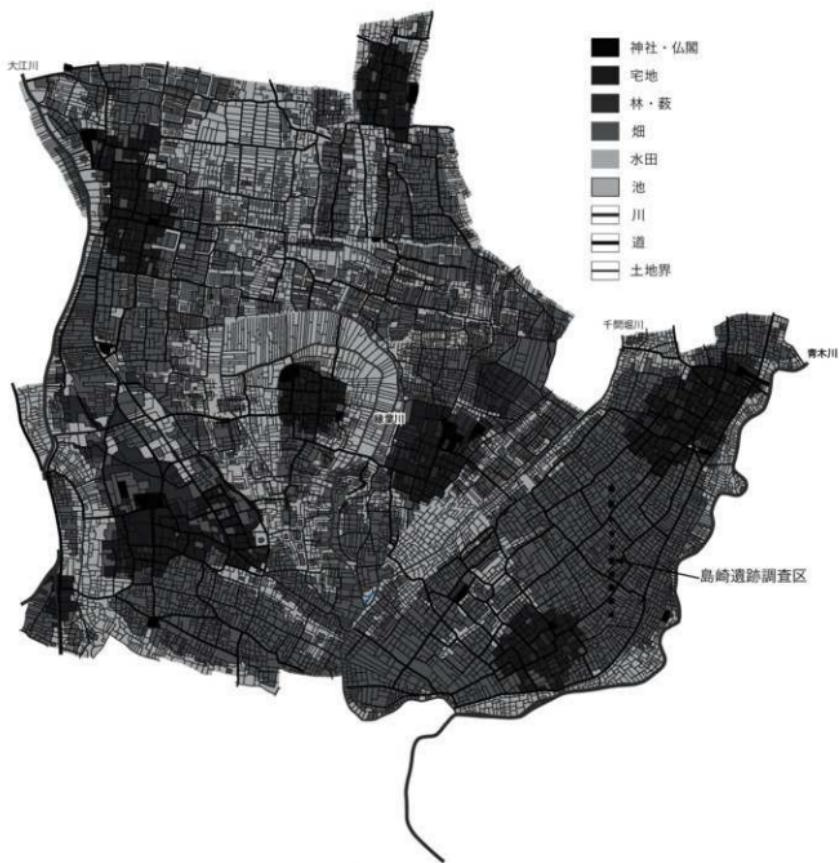
遺物は古墳時代・古代から江戸時代・明治までみられるが、遺構の主体は12世紀後半～15世紀前半の中世期である。中世期の遺構配置は概ね、井戸が検出されたD・E区を中心に、溝が掘削されるB・Gまでの範囲が居住城、その南北の低地部が方形土坑で構成される墓域と考えられる(第59図)。次に中世期の遺構変遷であるが、このことを考える前に、調査地点の中央部は遺構上位が、南北の低地部は下位に至るまで江戸期以降の掘削で遺構が削平されていることを、考慮にいれておく必要がある。遺物からみると、12世紀後半～13世紀にかけてはA～G区に、14世紀前半はやや希薄で、14世紀後半～15

地形と立地

居住城

低地部

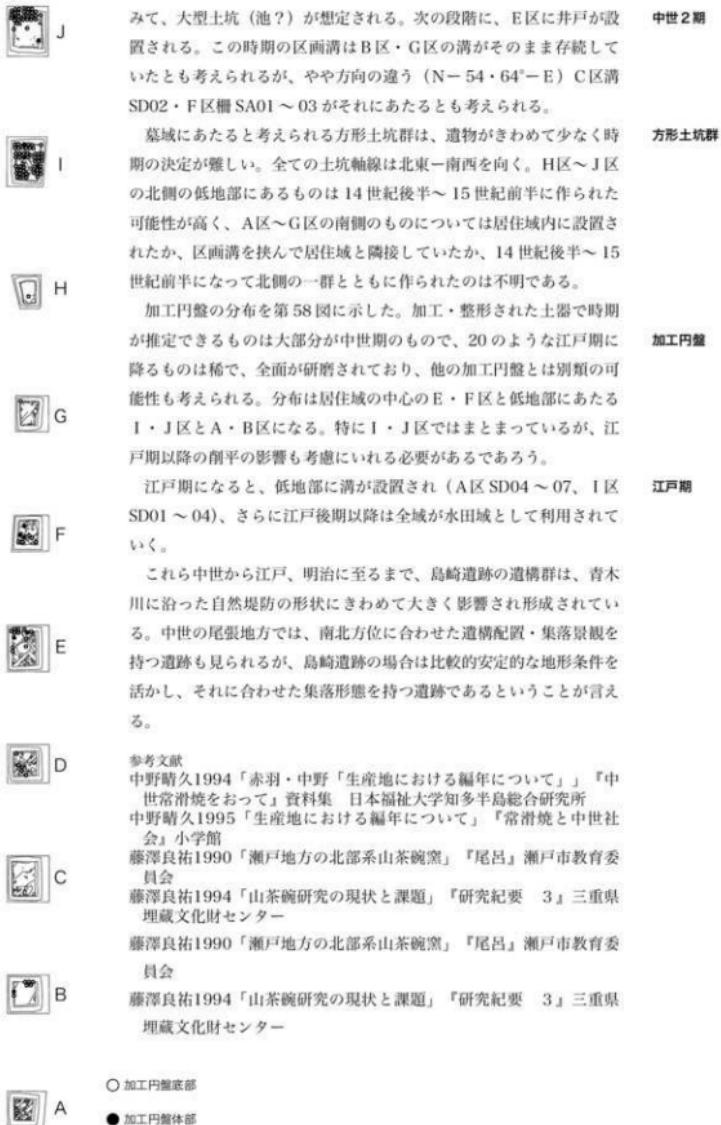
墓域(方形土坑)



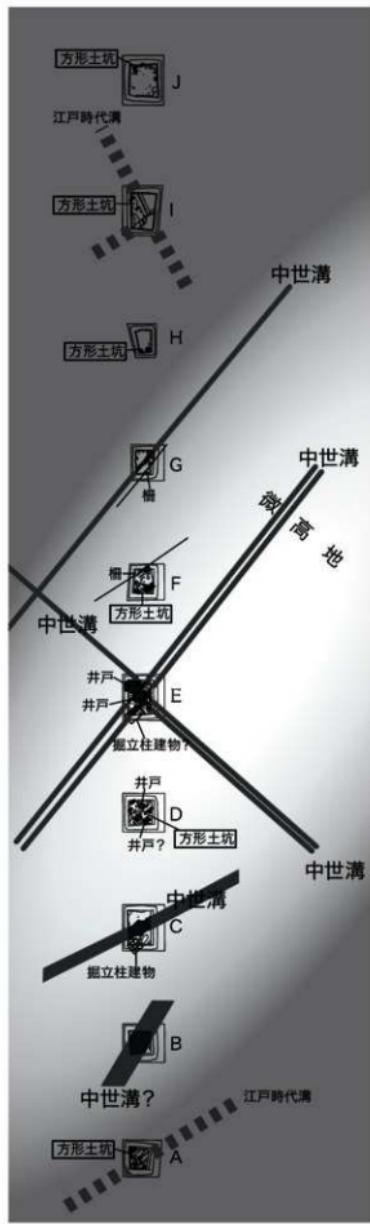
第 57 図 明治 17 年地籍図

(丹羽郡平島村・外壽村・吾妻村・馬見塚村・猿海道村・森本村・多加木村に加筆)

世紀前半にかけては H～J 区に分布の中心がある。12 世紀後半～13 世紀の遺物が分布する A～G 区の中で E 区を見てみると、溝 (SD03・05・07・08) → 井戸 (SK05) の切り合いが確認され、遺構変遷に 2 時期あることが判る。このことは D 区の井戸と合わせ、井戸が 2ヶ所あることと関連する可能性がある。また G 区の溝 SD01・削 SA01 も E 区の溝と同方向 ($N - 40^{\circ} - E$) を向いている。このことから当初の遺構配置は、これらの溝で区画された居住域であったと想定され、D 区の井戸 (SK14) や大型土坑 (SK51) や C 区の掘立柱建物 (SB01)、さらに E 区南西の掘立柱建物になる可能性ある部分 (SB01) が居住域内の施設ということになる。また B 区 SX01 は、 $N - 31^{\circ} - E$ と方向はややすれ
中世 1 期
るが、低地部との境界に区画のため掘削された溝、または皿状の断面を呈することから



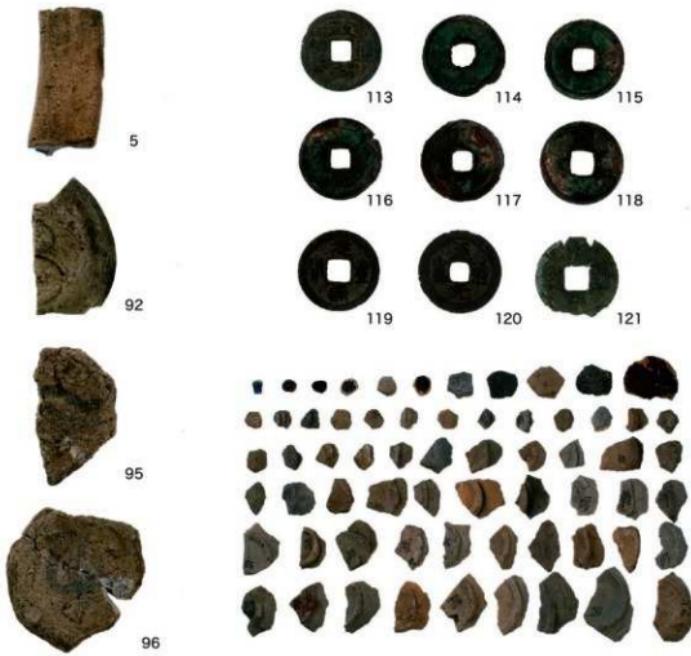
第58図 加工円盤分布図（1:1800）



第59図 島崎遺跡主要遺構配置図 (1:1800)



写真20 各調査区出土遺物1



各調査区出土加工円盤

写真21 各調査区出土遺物2

ふりがな	しまざきいせき・でんぼうじほんごういせき・なかのごうたいせき
書名	島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡
副書名	
卷次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第139集
編著者名	宮腰健司・鶴見弘・早野浩二・山形秀樹・植田弥生・馬場健司・辻本裕也・藤根久・長友純子・小村美代子・森勇一他
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しまざきいせき 島崎遺跡	あいちけんいちらみやし 愛知県一宮市 しまざき 島崎	23203	02107	35度 17分 13秒	136度 49分 46秒	20010113 20010327	2,000	県道高速 清洲一宮線 建設
でんぼうじほんごう 伝法寺本郷 いせき 遺跡	あいちけんいちらみやし 愛知県一宮市 たんようちくさんじゆ 丹陽町伝法寺	23203	02108	35度 15分 35秒	136度 50分 36秒	20010409 20010530 20010827 20010919	1,600	
なかのごうきた 中之郷北 いせき 遺跡	あいちけんにしあすがいでん 愛知県西春日井郡 にしはるとうかのこう 西春町中之郷	23344	19016	35度 14分 37秒	136度 50分 52秒	20011003 20020214	2,400	

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
島崎遺跡	集落	鎌倉～室町 江戸	溝・土坑・井戸 水田	山茶碗・常滑陶器 瀬戸美濃陶磁器 土師器皿・土師器鍋 錢貨・刀子	
伝法寺本郷 遺跡	集落	古墳 奈良～平安 鎌倉～室町 江戸	水田 河川・堅穴住居 溝 畠・水田	土師器 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	奈良時代の集落
中之郷北 遺跡	集落	古墳 飛鳥～奈良 鎌倉～室町 江戸	溝・堅穴住居 河川・堅穴住居 溝 畠・水田	土師器・須恵器・鉄製品 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	土師器の一括資料 古墳～奈良時代の金属 製品製作関連遺物の 出土

文書番号 (島崎遺跡)	発掘届出(12埋セ第173号 12.12.5) 終了届・保管証・発見届(12理セ第220号 13.3.28)	通知(12教生第216-40号 12.12.25) 監査結果通知(12教生第216-40号 13.5.28)
文書番号 (中之郷北遺跡)	発掘届出(12埋セ第208-14号 13.3.16) 終了届・保管証・発見届(13理セ第101号 13.9.27)	通知(12教生第216-46号 13.3.28) 監査結果通知(13教生第216-46号 13.10.11)
文書番号 (伝法寺本郷遺跡)	発掘届出(13埋セ第72号 13.8.24) 終了届・保管証・発見届(13埋セ第169号 14.2.28)	通知(13教生第36-10号 13.9.13) 監査結果通知(13教生第36-10号 14.3.27)

要 約	島崎遺跡は、鎌倉～室町時代には、遺跡中央部が集落域となり、北東～南西に延びる微高地地形に沿うような、溝・井戸・方形土坑が検出されている。 伝法寺本郷遺跡は、古墳時代・奈良～平安時代・鎌倉時代・江戸時代の複合遺跡である。発掘調査の結果、各時代を通じた土地利用の変遷が明らかとなった。 中之郷北遺跡は、古墳時代・奈良～平安時代・鎌倉～室町時代・江戸時代の複合遺跡である。発掘調査では各時代の遺構と遺物が層序ごとに連続して検出された。発掘調査の成果は、当地域における地 形発達史・土地利用史に資する重要な知見である。 なお、立会調査によって発見された宇福寺遺跡においては、古墳時代の土器を大量に採集した。
-----	---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第139集

島崎遺跡

伝法寺本郷遺跡

中之郷北遺跡

2006年3月31日

編集発行 財團法人 愛知県教育・スポーツ振興財團

愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 西濃印刷株式会社